



水戸の黄門まつり

目 次

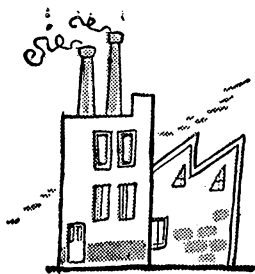
統計利用のすすめ	東 畑 精 一	(1)
県内産業の展望	横須賀 弘	(2)
統計図表のえがき方	玉 手 英 三	(4)

統 計 表

消費者物価の概況(1月～6月)	(8)
38年産米生産費調査結果	(10)
県内の道路現況(38年度)	(12)
本県の自動車台数	(15)
医療施設と関係者数	(16)
県内の気象状況(38年)	(18)
鉱工業生産指数(4月)	(20)
毎月勤労統計調査結果速報	(22)
茨城県常住人口(5月)	(25)
統計漫歩	田中二三四 (26)
統計の交差点	(27)
統計課人事異動	(27)
近着統計資料案内	(28)
人間雑話	塚本勝義 (29)

統 計 茨 城

39年8月



統計利用のすすめ

東 畑 精 一

(統計審議会々長)

現代は計画の時代だといわれている。国民所得倍増計画、国土総合開発計画などその例はまことに多い。国の政策はすべて計画によつて進められているといつてよい。これらの計画の基礎資料になるものが統計である。そこで、政府は数多くの統計を作らなければならない。計画を立案するためにあらゆる分野について統計が作られているといつても、過言ではない。だからまた、現代は統計の時代とも数学の時代ともいうことができる。

統計というものは、特有の使命をもっている。それは他の目的のために使われてこそ存在価値があるということである。

統計は、ただ単に作られ存在しているだけでは、なんの役にも立たない。なにかのために使われたときに初めて、作られた意義が生れてくる。いわば統計は道具なのである。

最初、政府の作る統計はもつぱら政府が使うだけのものであつた。たとえば徴兵のためにあるいは課税のために、政府は人口や生産の統計を作つた。いつてみれば、このころの統計は自家用の道具だつたとなしえよう。

しかし、政府の作る統計は、その労力や規模などの点で民間企業などが作る統計よりも、はるかに包括的である。そこで、政府が国民の税金を使つて作る統計は、せいぜい多くの人によつて使われることが望ましいということになつた。

こうして、いまでは政府の統計は、いわば市販される道具とでもいえるものになり、民間人によつて使われることを待っているのである。特に重要だと指定された統計は、法律によつて公表されなければならないと定められているほどである。

ここで国民の皆様をお願いしたいのは、政府が作り発表している統計をせいぜい使つていただきたいということである。多くの予算を費して毎月毎年作りだされる統計を、積極的に活用してくださるよう、お願いしたい。

他方、政府に対しては、統計の使いかたを示し、またどこで手に入るかを周知させるようにと、希望しておきたい。統計はいずれも定義や調査方法が与えられているから、それを知らないでは、正しい使い方はできない。

またそれがどこで販売されているかを積極的に知らせなければ、国民が使いたくとも使えないことになろう。いままでは、統計という商品についての宣伝が十分ではなかつた。

このようにして、政府の統計が国民の皆様によつて多く使われるようになると、当然その統計に対する批判がでてくることになろう。批判が多くなれば、それによつて政府の統計はもつと使いやすいものになり、またもつと充実したものになつていくにちがいない。

県内産業の展望

(その2)

—国民所得と第2次産業—

県統計課 横須賀 弘

3 国民所得と第2次産業

今回は前回に引続き国民所得と第2次産業についてふれてみましょう。

いままで、国民所得という言葉は何回も出てまいりましたが、前にもくわしく説明しましたように、国民所得と申しますのは国民経済において生産された純生産物の価値の総額を示すものであることは御承知のとおりであります。ここで、これからでてまいります粗付加価値あるいは付加価値ということについても簡単に説明してみますと、国民経済活動において各産業部門の生産品を市場価格で合計した総生産額から、原材料・燃料・動力費を差し引きますと、労働によつて付加した生産価値の集積が残ります。これを粗付加価値といひます。この粗付加価値から機械の減価償却費および間接税を差し引いたものが付加価値と呼ばれるものであります。また、この粗付加価値を1年間で合計したものを年間の国民総生産と呼びます。

このことは、国民所得の重要な評価基準とされており、すなわち、国民所得を純 (Net) ベース——国民純生産ないし国民純所得——で評価されたものと、総 (Gross) ベース——国民総生産ないし国民総所得——で評価されたものの2つの概念に大きく区別して国民所得の測定や表象において両建てて用いられ、評価基準として、また分析の対象として、それぞれ大きな意義を示していることは周知のとおりであります。

次に第2次産業であります。この産業のなかにあつかわれるものとして、鉱業・建設業・製造業があります。これらの産業は多くの場合、資本、機械および技術等によつて原材料を処理加工し、商品の大量生産を行なつて国民所得の増加に大きな役割を果すわけであります。したがつて、第2次産業の盛衰こそ国民経済に大きな影響を与えるわけであります。

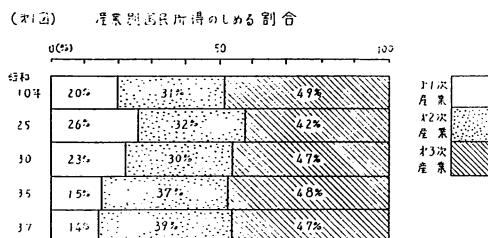
昭和37年度の生業別国民所得をみましても、第2次産業は6兆1605億円で国民所得総額15兆8649億円に対し39.0%を占めております。このうち、製造業は4兆8431億円で全体の30.7%を占めております。

また、これを従業者についてみましても、第2次産業の従業者は1,325万人で、全産業従業者4,265万人に対し

31.1%を占めており、このうち製造業は1,024万人で全体の24.0%を占めております。

このように全産業従業者の約3割に当たる第2次産業従業者で国民所得総額の約4割を生みだしたことになるわけでありす。

御参考までに産業別国民所得のしめる割合を表わしたのが第1図であります。(第4表参照)



(第4表) 第2次産業の国民所得に占める割合

	国民所得 (A)	第2次産業うち 製造業		構 成 比		
		(B)	(C)	(A)	(B)	(C)
	億円	億円	億円	%	%	%
30年	67,189	20,344	15,654	100	30.3	23.3
35年	119,371	45,727	36,290	100	38.3	30.4
36年	141,964	55,597	43,957	100	39.2	31.0
37年	157,825	61,605	48,431	100	39.0	30.7

(第5表) 第2次産業従業者の従業者総人口に占める割合

	従業者 総人口 (A)	第2次産業 従業者うち 製造業従業者		構 成 比		
		(B)	(C)	(A)	(B)	(C)
	千人	千人	千人	%	%	%
30年	39,261	9,220	6,902	100	23.5	17.6
35年	43,691	12,731	9,595	100	29.1	22.0
37年	42,654	13,246	10,239	100	31.1	24.0

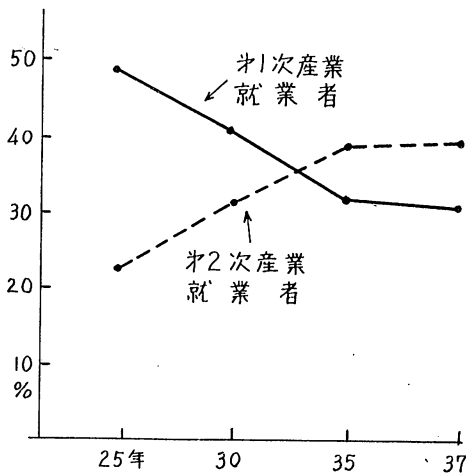
また第4表をみても分りますように、昭和30年の国民所得に占める第2次産業の生産所得は30.3%にあたります。ところが、37年には実に39.0%と、大きな伸長がみ

られます。殊に就業者総人口のなかに占める第2次産業就業者の割合は第5表からもうかがわれるように30年は23.5%、35年29.1%、37年は31.3%と大きな増加がみられます。

しかし、37年においては、35年にくらべ、就業者総人口が1,000千人の減少がみられたのは注意すべき点でありましょう。

このような動態を図示したのが第2図であります。

(オ2図) 1次・2次産業の就業構造の推移



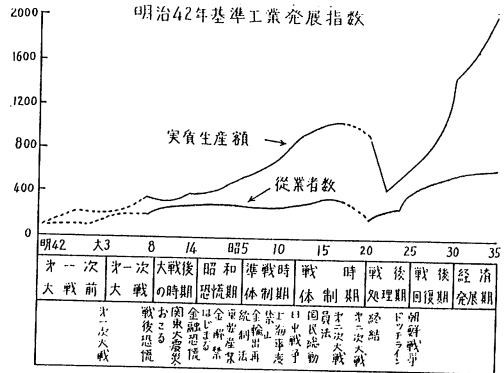
以上お話ししましたように経済の高度成長が、労働面において著しい構造変化をもたらしたことになるわけです。すなわち、これらの変化を産業別にみてもみますと、前にも触れましたように全産業中に占める第1次産業就業者の比率は昭和30年度の42%（農業は39%）から37年度の30%（農業は28%）へと著しく低下したのに対し、第2次産業の就業者の比率は30年度の24%（製造業は18%）から37年度31%（製造業は24%）と大幅な増大を示しております。

このように、わが国の経済は様々の移り変りのもとにめざましい発展をとげたわけですが、その中心となつた産業が製造工業であつたことは皆さんすでに御承知のとおりであります。

しかし、その発展過程のなかにも第3図からうかがわれますようにいろいろな変遷をたどつて現在にいたつていっているわけでありまして。

前回戦後の経済の推移についてお話ししましたが、その動向と同じことが第3図からもうかがえるわけでありまして。すなわち、昭和20年に終戦をむかえ、そのなかにあつて工業生産活動は次第に活発化し、昭和25年には一応の立直りをみせ、その工場数、従業者数はそれぞれ昭和10年の1.5倍になりましたが、その実質出荷額では昭

(オ3図)



資料 通産省編「日本の産業」より

和10年の水準には達しませんでした。しかし、25年6月朝鮮動乱の勃発を動機に停滞状態にあつた工業生産はにわか活況を呈し、27年には消費景気、28年にはその対策として緊縮による経済正常化の政策がとられました。続いて、30年、31年には内需が活発となり、いわゆる神武景気が到来したわけでありまして。当時（30年）の製造工業の工場数・従業者・実質出荷額はそれぞれ昭和10年の2.2倍、1.9倍、1.8倍と大きな伸長を示しております。

しかし、こうした情勢のなかでも国内および海外との競争に対処するために技術革新の設備投資が盛んに行なわれるようになりましたが、このような活発な投資は輸入増をくりかえし、再び国際収支の悪化を招き、それらの対策の金融引締から32、33年にかけて、いわゆるナベ底景気と呼ばれた不況に見舞われました。しかし、産業構造の高度化と技術革新に支えられ、昭和34年からは景気も回復し、36年には、工場数・従業者・実質出荷額は昭和10年の2.9倍、3.1倍、4.9倍とそれぞれ大きな発展をしたわけでありまして。（以下次号）



統計図表のえがきかた(下)

玉手英三

度数分布図 統計集団の量的構造を分析するのに用いる。変量を水平線により、度数をこれに垂直の軸にとつて、紙面内の一点の座標によつて変量と度数との対応を示すのが度数分布図の特長である。ふつう連続した変量の場合(第28, 29図)は変量を適当な区間(級)に分けて整理する。各級を示す度数を棒図(第28図)または線図(第29図)として表わす。第28図では変量を年齢、度数を人口により、第29図では変量を点数、度数を%にとつている。第28図では変量が連続しているので棒は相接してえがく。これを度数分布柱列図(ヒストグラム)といい、第29図は度数分布多角図という。これらは曲線でえがいてもよい。これを度数分布曲線図という。不連続変量の場合(世帯人員等)はヒストグラムでえがくのであるが各棒の間を少しあけておく。

人口ピラミツト 第30図は男女2組の年齢階級別分布図を水平にして変量(年齢)は縦線上に、度数(人口)は横線上にもつてきて組合せたもので、一般にピラミツト型をなし人口ピラミツトといわれている。

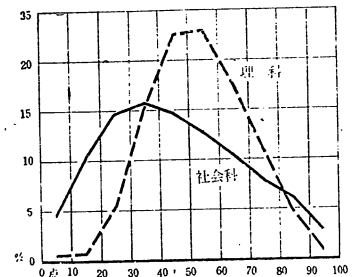
内訳グラフ 百分比の内訳の割合を比較するグラフには帯グラフ、パイグラフおよび三角グラフがある。

帯グラフ 長方形の面積をいくつかに分けて内訳の割合を各区分の面積によつて示すグラフである。(第31図)長方形の内訳面積の比例は、辺の長さに比例するから長辺の全長を100%とし、左から右に、また下から上に数値の割合の大きいものから順にならべ、「その他」は大きくとも最後におく。各区分は模様または色で区別する。第32図のように連続図の場合は左から右へと、大小の順

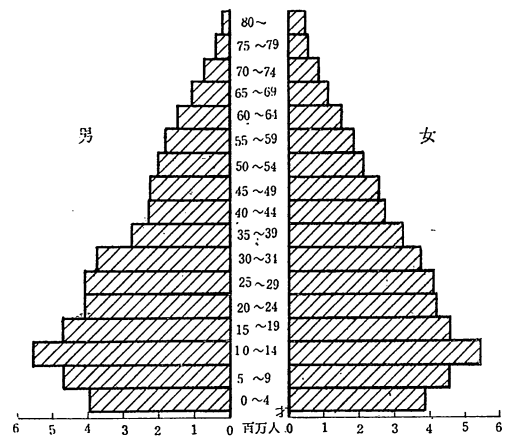
序でえがくより、はじめに定めた順序にしたがつてえがいた方が見やすい。

パイグラフ 帯グラフと同様百分比の内訳を示す。(第33図)洋菓子のパイに形が似ているので一般にパイグラフとよばれる。円の中心から直線をもつて分割した円内の一区画の面積は弧の長さに正比例するから、全円周を百分として、統計集団の内訳割合を円周上にとり、各点から円の中心点に引いた直線を区画線とする。区画

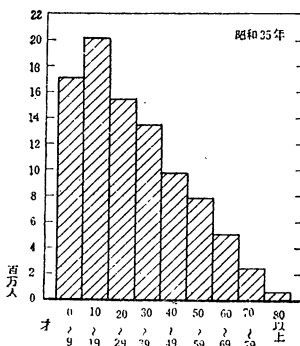
第29図 某校の理科・社会科成績分布



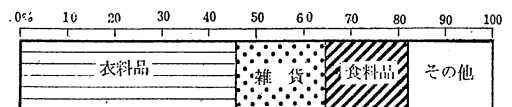
第30図 年齢階級別人口構成図



第28図 人口の年齢階級別分布



第31図 全国百貨店商品別売上高 昭和37年



の基線は円周上の上部中央（時計でいえば12時の点）から円の中心に引いた直線にとり、時計の針の進む方向に数値の割合の大きいものから順に並べ、「その他」は大きくとも最後におく。同心円で円内に余白をおいても割合は変わらないから、普通円内に3分の1程度の同心をえがき書き入れなどに利用する。内訳が少ない時には半円4分の1円にしてもよいわけである。

三角グラフ 特殊な内訳グラフで、主体の構成が三つの部分からなっている統計集団のおおの割合を比較する場合に用いる。正三角形内の任意の1点から、各辺におろした三つの垂直線の和は頂点から底辺におろした垂直線の長さに等しいという幾何の定理をグラフに適用したものである。（第34図）まず正三角形の各辺から各頂点までの距離を10等分して、各辺にしたがつて平行線を引く。これが各辺からの10%ずつの目盛線となる。三つの辺を業主、家族従業者、雇用者の各基軸線と定め、各主体の内訳割合を図上に求め、一点に集まつたところが確定点となる。確定点から各基軸線に垂直な直線をおろせばよい。統計集団の構成が、男女とか輸出輸入のように二つの部分から成るものや、四つ以上の部分から成るものはこのグラフではえがけない。しかし四つ以上の場合はおもなもの二つ他は一括「その他」として集団を3分すればえがける。

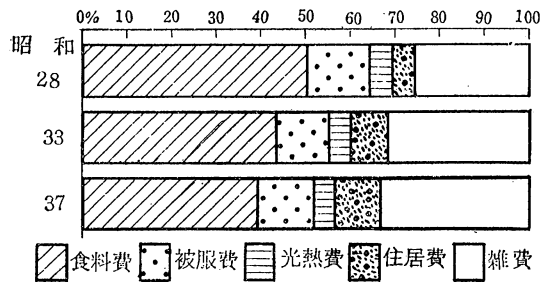
統計地図 事物の所在や地理的な分布または交流を示す図表である。今までのべたいずれの図表でも地図上に応用すればよいわけであるが、一般には点グラフ（第35図）や棒グラフ（第36図）が多い。地図の上で位置をみながら統計数量を比較できるので、印象的で効果も大きい。目盛りをつけたり、一定のワク内に入れたりできるので数値の大小の差の変化に富んでいる統計に用いるとよい。図案化した物象図（インタイプ）でえがくと一層効果的である。地図は白地図を用い、無用な書入れはしない方がよい。統計地図独特のグラフとして線地図と模様地図がある。

線地図 線地図の上に二つまたはそれ以上の地点との間に線を引き、線の太さによつて、地域間に動いた数値の大小を示す図表である。（第37図）国際貿易、鉄道輸送量、送電量などを示すに用いる。一目で距離と数量を理解させ、宣伝用として広く用いられている。

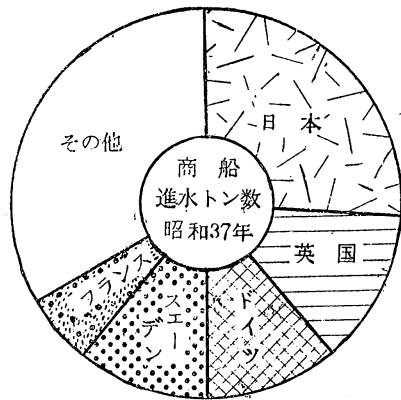
模様地図 色分け地図といい地図上の各区分ごとに模様または色の濃淡によつて、数値の大小を比較するとともに、全体的なおおその疎密を一目で示す図表である。（第38図）模様でえがく場合は第38図のように細い斜線から太い斜線に変化をつけてえがけば一目で見分けられる。色分け地図の場合は同色か近似色の濃淡で表わす。

絵グラフ 統計集団を代表する物象をもつて数値の

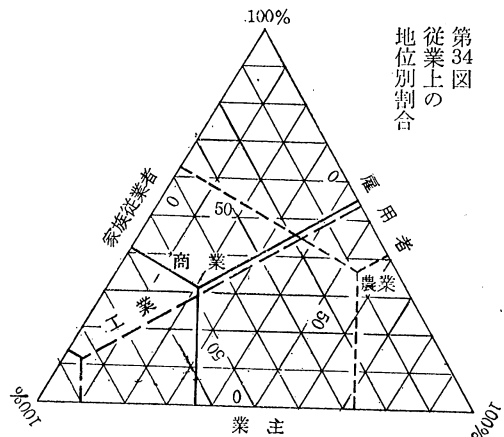
第32図



第33図 生計費の内訳

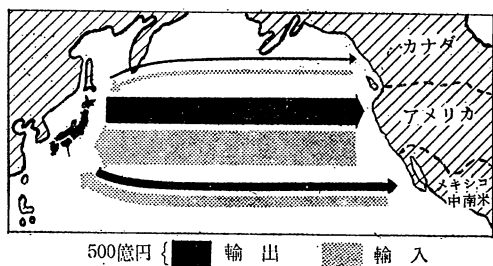


第34図
従業員上の
地位別割合

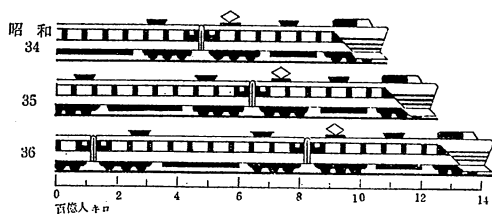


大小を比較する図表で、独立した形式をもつ図表ではなく、点、棒、線、面積などを絵画化して表わすのが普通である。立体や、面積では計算も容易でないし、見る者にとっては図表の上で数量を比較することは不可能である。第39図のように普通のグラフをえがき絵を装飾的に添えておくのも無難である。絵グラフは製作者の考案しだいで装飾の効果があるので展示用、宣伝用などに利用される（第40図）終

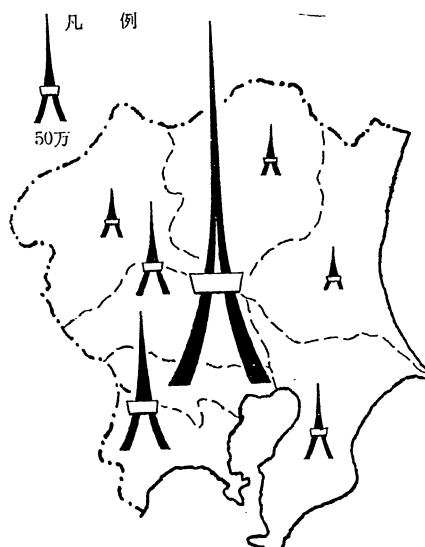
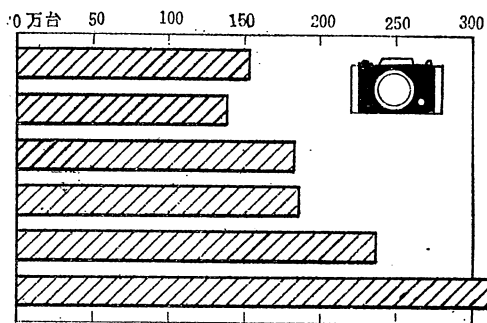
第37図 わが国対米貿易 昭和37年



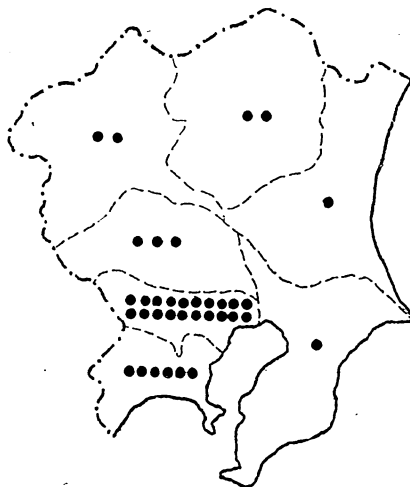
第40図 国鉄輸送人員



第39図 写真機輸出数



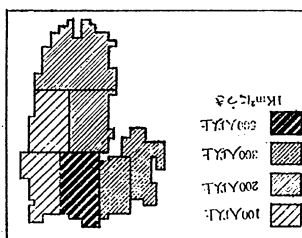
第36図 関東地方のテレビ契約数 (昭和二十八年三月末)



第35図 関東地方各都県人口密度

第38図 九州各県の人口密度

昭和135年国調



水戸市における 消費者物価の概況

(昭和39年1月～6月)

水戸市における消費者物価の本年1から6月までの調査結果については、概要次のとおりであります。

1月 1月の水戸市における消費者物価指数は、総合で120.4、前月の119.3に比べて0.9%の上昇を示したが、これは主として野菜・魚介などの食料品の値上りによつて、もたらされたものである。

生鮮食料品を除いた総合指数では118.3となり、前月の118.4に比べて0.1%の微落となつた。

今月上つた主要なものは、野菜・魚介・乾物などで、一方下つた項目は、乳卵・光熱・文房具・菓子果物などである。

(1月) 水戸市の消費者物価指数 昭和35年=100

	総 合	食 料	穀、類	その他の 食 料	住 居	光 熱	被 服	雑 費
昭和38年1月	117.5	119.9	109.9	123.7	117.6	104.6	118.5	114.2
〃 12月	119.3	118.5	110.6	121.6	120.8	104.0	125.6	121.2
昭和39年1月	120.4	121.2	110.7	125.2	121.2	100.6	126.5	119.6
対前月比(%)	0.9	2.3	0.1	3.0	0.3	-3.5	0.7	-1.3
前年同月比(%)	2.5	1.1	0.7	1.2	3.1	-3.8	6.8	4.7

2月 上昇を続けていた被服が、冬物衣料などの値下りで大きく下落したことが主因で総合で119.6となり、前月の120.4に比べ0.7%下落した。

生鮮食料品を除いた総合指数117.3前月に比し0.8%の下落、今月上昇の主要項目は乾物・菓子果物・教養娯楽などで下つたものは野菜・被服・肉類などが主なもの。

(2月)

	総 合	食 料	穀 類	その他の 食 料	住 居	光 熱	被 服	雑 費
昭和38年2月	115.9	117.1	109.9	119.9	117.6	104.6	117.9	114.1
〃 39年1月	120.4	121.2	110.7	125.2	121.2	100.6	126.5	119.6
〃 2月	119.6	121.2	110.7	125.2	121.6	100.6	118.5	120.2
対前月比(%)	-0.7	0	0	0	0.3	0	-6.3	0.5
前年同月比(%)	3.2	3.5	0.7	4.4	3.4	-3.8	0.5	5.3

3月 総合で120.8となり前月の119.6に比較して1.0%上昇した。これは生鮮魚介・野菜が大きく値下りしたにもかかわらず、果物が大巾に値上りしたためである。生鮮食料品を除いた総合指数でみると117.9となり、前月の117.3と比較すると0.5%の上昇となつている。今月上つた主な項目は、菓子果物・乾物・光熱で、下つたものは野菜・魚介・被服などである。

(3月)

	総 合	食 料	穀 類	その他の 食 料	住 居	光 熱	被 服	雑 費
昭和38年3月	116.7	119.3	109.9	122.9	117.4	104.6	115.1	114.1
昭和39年2月	119.6	121.2	110.7	125.2	121.6	100.6	118.5	120.2
〃 3月	120.8	124.2	111.3	129.2	121.6	104.5	113.7	120.3
対前月比(%)	1.0	2.5	0.5	3.2	0	3.9	-4.1	0.1
前年同月比(%)	3.5	4.1	1.3	5.1	3.6	-0.1	-1.2	5.4

4月 総合で122.2前月の121.7と比べて0.4%の上昇、これは主として、洋服仕立代・入浴料などのサービス料と新学期をむかえての私立学校授業料などの値上りが主因、生鮮食料品を除いた総合指数では119.9となり、前月の118.9に比べ0.8%の上昇となった。今月上つた主な項目は肉類・魚介・教育・被服などで、一方下つたものは菓子果物乳卵など。

(4月)

	総合	食料	穀類	その他の食料	住居	光熱	被服	雑費
昭和38年4月	117.2	117.5	109.9	120.5	118.7	104.0	118.2	118.9
〃 39年3月	121.7	124.2	111.3	129.2	121.6	104.5	120.9	120.3
〃 4月	122.2	123.1	111.3	127.7	121.2	104.5	126.9	122.4
対前月比(%)	0.4	-0.9	0	-1.2	-0.3	0	5.0	1.8
前年同月比(%)	4.3	4.8	1.3	6.1	2.1	0.5	7.4	2.9

5月 総合で122.4、前月の122.3に比し0.2%の微騰となった。これは光熱・雑費などが前月と変わりなく、被服・住居関係がそれぞれ下落したが野菜などの食料品が値上りしたためである。

生鮮食料品を除いた総合指数では119.0前月に比べ0.8%の下落、今月上昇したものの野菜・肉類・乾物、一方下つたものは魚介・家具什器・被服など。

(5月)

	総合	食料	穀類	その他の食料	住居	光熱	被服	雑費
昭和38年5月	121.3	124.9	109.9	130.8	119.7	103.9	118.0	119.3
〃 39年4月	122.2	123.1	111.3	127.7	121.2	104.5	126.9	122.4
〃 5月	122.4	125.0	111.3	130.3	118.6	104.5	122.6	122.4
対前月比(%)	0.2	1.5	0	2.0	-2.2	0	-3.4	0
前年同月比(%)	0.9	0.1	1.3	-0.4	-0.9	0.6	3.9	2.6

6月 総合で122.1、前月の122.4に比べて0.3%の微落。これは乾物・穀類を除くその他の食料品・肉類が下落したことによる。しかし乳卵・家賃地代などは若干上昇した。生鮮食料品を除いた総合指数では、119.1と前月に比べ0.1%の微騰となった。今月上つた主なものは、乳卵・家賃地代・野菜・外食など、一方下つたものは、乾物・肉類・菓子果物などが主なもの。

(6月)

	総合	食料	穀類	その他の食料	住居	光熱	被服	雑費
昭和38年6月	119.3	120.7	109.6	125.0	119.8	103.9	120.2	119.2
〃 39年5月	122.4	125.0	111.3	130.3	118.6	104.5	122.6	122.4
〃 〃 6月	122.1	124.5	113.4	128.8	119.5	104.0	122.8	122.2
対前月比(%)	-0.3	-0.4	0.1	-1.2	0.8	-0.5	0.2	-0.2
前年同月比(%)	2.4	3.2	3.2	3.0	-0.3	0.1	2.2	2.5

水戸市における消費者物価指数(大分類別)

昭和38年=100

年 月	総 合	食 料	住 居	光 熱	被 服	雑 費
昭 和 35 年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
昭和36年 平均	105.7	106.6	110.7	99.5	102.6	104.0
// 37年 //	111.2	110.5	118.4	103.4	113.1	110.6
// 38年 //	119.5	121.1	119.4	104.1	120.8	118.7
昭和 38年 1月	117.5	119.9	117.6	104.6	118.5	114.2
// 2月	115.9	117.1	117.6	104.6	117.9	114.1
// 3月	116.7	119.3	117.4	104.6	115.1	114.1
// 4月	117.2	117.5	118.7	104.0	118.2	118.9
// 5月	121.3	124.9	119.7	103.9	118.0	119.3
// 6月	119.3	120.7	119.8	103.9	120.2	119.2
// 7月	121.3	123.8	119.8	103.9	121.9	119.9
// 8月	121.2	123.6	119.9	103.9	121.9	120.1
// 9月	122.4	125.6	120.3	103.9	123.7	120.9
// 10月	121.6	123.5	120.8	104.0	123.9	120.9
// 11月	119.9	119.8	120.8	104.0	124.8	121.2
// 12月	119.3	118.5	120.8	104.0	125.6	121.2
昭和 39年 1月	120.4	121.2	121.2	100.6	126.5	119.6
// 2月	119.6	121.2	121.6	100.6	118.5	120.2
// 3月	121.7	124.2	121.6	104.5	120.9	120.3
// 4月	122.2	123.1	121.2	104.5	126.9	122.4
// 5月	122.4	125.0	118.6	104.5	122.6	122.4
// 6月	122.1	124.5	119.5	104.0	122.8	122.2

150kg(石)当り水稻生産費7,800円

(昭和38年産米生産費調査結果)

農林省茨城調査事務所

昭和39年7月21日水稻の生産費について上記より発表されたが、この生産費調査結果は水稻 220戸、陸稲10戸について調べたものである。本年度水稻作は病害による被害があり生産費調査農家平均反当収量は 433kgで前年に比し約5%の減少となり、陸稲も病害と一部気象災害による被害があり 215kg で前年に比し2%の減収となった。

1 反当生産費

水稻の反当生産費は2万2千458円、37年より 10.4%高くなっているが全国平均2万3千511円より4.5%低い。陸稲の反当生産費は1万4千318円で37年より5%高である。

水稻の生産費についてみれば労働費は上昇が目立っている。その60%お占めていて基幹的費目となっているのであるが37年より約14%高くなつていて次いで主要なものは肥料費、農具費、諸材料の順であつて、37年に対比するとそれぞれ3%、8%、16%高となつている。これ

らは農機具の増加とそれに伴う運転消耗材および農薬の増投によるものであつて、農業技術の向上にともなる費用の上昇である。

2 150kg(石)当り生産費

水稻の150kg当り生産費は7千776円、陸稲は9千970円で37年よりそれぞれ15%、7%高く、何れも反当生産費に比し割高となつている。

3 米の収益と労働報酬

水稻生産費(費用合計+資本利子+地代)に対する純収益の比率は59.3%で前年の68.9%より低い。粗収益の伸びが生産費の伸びを下回つたことによるものである。家族労働報酬は1日当り1,568円であつて前年に比べれば収量減により粗収益が伸びなかつたため、64円増に止まつた。

陸稲は調査戸数10戸で事例調査にすぎず、参考までに調査結果をお知らせする。

第1表 昭和38年産米生産費調査成績

費目	水 稲			陸 稲			
	反 当(円)	150 kg 当	割 合(%)	反 当(円)	150 kg 当	割 合(%)	
種 苗 費	263	91	1.2	366	255	2.5	
肥 料 費	3,360	1,163	14.9	2,752	1,916	18.3	
諸 材 料 費	1,183	410	5.3	455	317	3.0	
水 利 費	385	133	1.7	—	—	—	
防 除 費	176	61	0.8	142	99	0.9	
建 物 費	291	101	1.3	105	73	0.7	
農 具 費	2,288	792	10.1	1,421	989	9.4	
畜 力 費	677	234	3.0	—	—	—	
勞 働 費	年 雇 賃	—	—	—	—	—	
	臨 時 雇 賃	738	256	3.3	14	9	0.1
	家 族 賃	12,516	4,333	55.5	9,659	6,726	64.3
計	13,254	4,589	58.8	9,673	6,735	64.4	
賃 料 々 金	654	227	2.9	107	75	0.8	
費 用 合 計 A	22,531	7,801	100.0	15,021	10,459	100.0	
副 産 物 価 額 B	2,135	739	—	1,673	1,165	—	
第 一 次 生 産 費 C = A - B	20,396	7,062	—	13,348	9,294	—	
資 本 利 子 D	854	296	—	433	302	—	
地 代 E	1,208	418	—	537	374	—	
第 二 次 生 産 費 F = C + D + E	22,458	7,776	—	14,318	9,970	—	
37 年 度 第 二 次 生 産 費	20,338	6,745	—	13,625	9,301	—	

第2表

調査農家概況(水稻)

1 戸 当 り		反 当 当 り	
経営耕地面積	水稻作付面積	重 量	容 量
15.5反	8.1反	433kg	2.89石

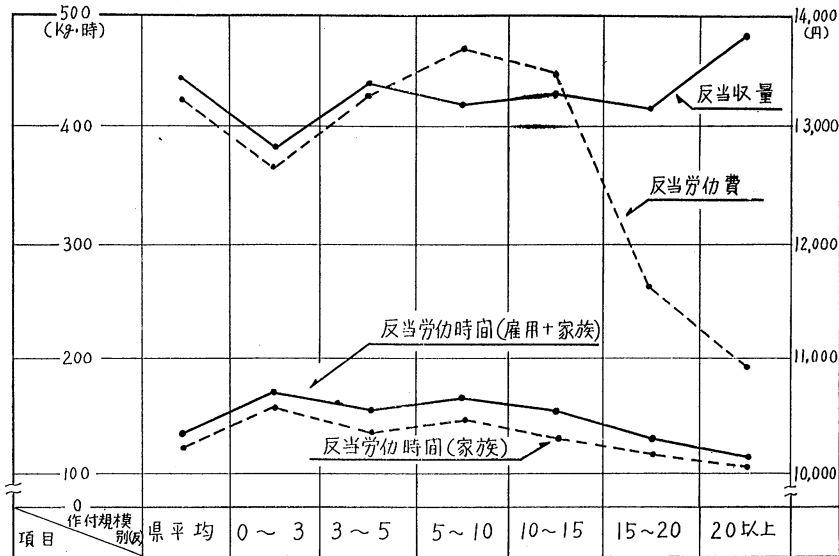
第3表

米の収益と労働報酬

(単位:円)

種 別	費 目	粗 収 益 A	計+地代 生産費(費用合) B	純 収 益 A-B	家 族 労 働 費 D	除く生産費 家族労働費を E=B-D	家 族 労 働 報 酬 F=A-E	家 族 労 働 時 間 G	時 間 当 家 族 H = F/G	一 日 当 家 族 I = H × 8	勞 働 報 酬
水 稻	反 当	39,179	24,593	14,586	12,516	12,077	27,102	138.6	196	1,568	
	150kg	13,565	8,515	5,050	4,333	4,182	9,383	48.0	—	—	
陸 稻	反 当	20,047	15,991	4,056	9,659	6,332	13,715	117.5	117	936	
	150kg	13,958	1,135	2,823	6,726	4,409	9,549	81.8	—	—	

反当労働時間および労働費・反当収量・作付規模別比較(水稻)



第4表

反当労働時間及び労働費・反当収量・作付規模別比較(水稻)

作付規模別(反)	単位	県平均	0~3	3~5	5~10	10~15	15~20	20以上	—
反当労働時間(雇用+家族)	時	(138.6) 146.2	(152.0) 156.4	(143.4) 151.2	(145.2) 151.7	(135.8) 144.9	(121.1) 126.3	(107.2) 119.6	—
反当労働費(雇用+家族)	円	13,254	12,751	13,294	13,590	13,455	11,575	10,958	—
反当収量(生産費農家)	kg	433	386	431	430	437	425	457	—

(注) 反当労働時間の()内は家族労働時間

県 内 の

(昭 和 39 年 3)

区分	道 路 種 類		年度別	路線数	⑦ 実 延 長	改良未改良別内訳(m)		改良率 (%)
						① 改良済延長	未改良延長	
		路 線 名						①/⑦
国道	一 級 国 道 (知事管理)	50号	38	2	139,614	79,591	60,023	57.0
		51号の大部分	37	2	140,102	78,131	61,971	55.8
			増△減	0	△ 488	1,460	△ 1,948	1.2
	二 級 国 道	118水戸郡山	38	5	257,339	133,022	124,317	51.7
		123宇都宮水戸	37	5	259,901	118,750	141,151	45.7
		124銚子水戸 125佐原熊谷 245水戸日立	増△減	0	△ 2,562	14,272	△ 16,834	6.0
	一 級 国 道 (知事管理)		38	7	396,953	212,613	184,340	53.6
			37	7	400,003	196,881	203,122	49.2
			増△減	0	△ 3,050	15,732	△ 18,782	4.4
	主 要 地 方 道		38	29	576,152	298,839	277,313	51.9
		37	29	577,604	282,093	295,511	48.8	
		増△減	0	△ 1,452	16,746	△ 18,198	3.1	
一 般 県 道		38	293	2,532,980	638,566	1,894,414	25.2	
		37	290	2,505,588	603,096	1,902,492	24.1	
		増△減	3	27,392	35,470	△ 8,078	1.1	
県道	主 要 地 方 道		38	322	3,109,132	937,405	2,171,727	30.2
			37	319	3,083,192	885,189	2,198,003	28.7
		増△減	3	25,940	52,216	△ 26,276	1.5	
国道	一 級 国 道 (知事管理), 二 級 国 道		38	329	3,506,085	1,150,018	2,356,067	32.8
	主 要 地 方 道, 一 般 県 道		37	326	3,483,195	1,082,070	2,401,125	31.1
		増△減	3	22,890	67,948	△ 45,058	1.7	
市 町 村 道		38	—	54,010,469	2,280,479	51,729,990	4.2	
		37	—	53,282,398	3,314,710	49,967,688	6.2	
総括	一 級 国 道 (知事管理), 二 級 国 道, 主 要 地 方 道		38	329	57,516,554	3,430,497	54,086,057	6.0
	一 般 県 道, 市 町 村 道		37	326	56,765,593	4,396,780	52,368,813	7.7
一 級 国 道 (指定区間)	4 号	38	2	144,434	141,154	3,280	97.7	
	6 号	37	2	146,123	132,382	13,741	90.6	
	51号の1部	増△減	0	△ 1,689	8,772	△10,461	7.1	
二 級 国 道 (知事管理)	指定区間	4	4	284,048	220,745	63,303	77.7	
	一 級 国 道 (知事管理及び指定区間), 二 級 国 道 (指定区間)	38	9	541,387	353,767	187,620	65.3	
	二 級 国 道 (知事管理及び指定区間)	331	331	3,650,519	1,291,172	2,359,347	35.4	
主 要 地 方 道, 一 般 県 道		38	331	3,650,519	1,291,172	2,359,347	35.4	
		37	328	3,650,519	1,291,172	2,359,347	35.4	
総計	一 級 国 道 (知事管理)		38	331	57,660,988	3,571,651	54,089,337	6.2
	二 級 国 道 (指定区間)		37	328	56,911,716	4,529,162	52,382,554	8.0
集	主 要 地 方 道		37	328	56,911,716	4,529,162	52,382,554	8.0
	一 般 町 村 道		増△減	3	749,272	△ 957,511	1,706,783	△ 1.8

注 1 路線数は、国道及び県道の路線数である。

2 橋数が小数で記載してあるものは、混合橋のうち橋

道 路 現 況

月 31 日 現 在)

県 道 路 補 修 課

種 類 別 内 訳					市 員 別 内 訳 (m)					
道路延長 (m)	橋 梁		トンネル		改 良 済			未 改 良		
	④ 個 数 (橋)	延 長 (m)	個 数 (個)	延 長 (m)	車 道	車 道	車 道	車 道	車 道	車 道
					7.5m以上	5.5m以上	4.5m以上	4.5m以上	3.6m以上	3.6m未満
137,418	71	2,196	—	—	22,311	57,280	—	52,049	7,148	826
137,886	69	2,216	—	—	23,444	54,687	—	53,186	7,958	827
△ 468	2	△ 20	—	—	△ 1,133	2,593	—	△ 1,137	△ 810	△ 1
253,098	141	4,241	—	—	42,582	90,440	—	79,321	31,143	13,853
256,072	146	3,829	—	—	32,675	86,075	—	88,973	35,056	17,122
△ 2,974	△ 5	412	—	—	9,907	4,365	—	△ 9,652	△ 3,913	△ 3,269
390,516	212	6,437	—	—	64,893	147,720	—	131,370	38,291	14,679
393,958	215	6,045	—	—	56,119	140,762	—	142,159	43,014	17,949
△ 3,442	△ 3	392	—	—	8,774	6,958	—	△ 10,789	△ 4,723	△ 3,270
568,789	366	6,600	4	763	34,522	202,176	62,141	165,684	74,553	37,076
569,957	367	6,884	4	763	26,535	192,487	63,071	172,679	81,014	41,818
△ 1,168	△ 1	△ 284	—	—	7,987	9,689	△ 930	△ 6,995	△ 4,461	△ 4,742
2,515,534	1,412	17,311	1	135	51,719	312,977	273,870	463,206	613,257	817,951
2,488,695	1,397	16,758	1	135	49,764	284,692	268,640	459,998	616,223	826,271
26,839	15	553	—	—	1,955	28,285	5,230	3,208	△ 2,966	△ 8,320
3,084,323	1,798	23,911	5	898	86,241	515,153	336,011	628,890	687,810	855,027
3,058,652	1,764	23,642	5	898	76,299	477,179	331,711	632,677	697,237	868,089
25,671	14	269	—	—	9,942	37,974	4,300	△ 3,787	△ 9,427	△ 13,062
3,474,839	1,990	30,348	5	898	151,134	662,873	336,011	760,260	726,101	869,706
3,452,610	1,979	29,687	5	898	132,418	617,941	331,711	774,836	740,251	886,038
22,229	11	661	—	—	18,716	44,932	4,300	△ 14,576	△ 14,150	△ 16,332
53,941,407	13,792	68,691	7	371	265,795	913,538	1,101,140	2,417,329	9,631,873	39,680,788
53,213,115	15,014	68,999	8	284	206,332	882,522	2,225,856	2,353,017	7,408,147	40,206,524
57,416,246	15,782	99,039	12	1,269	416,929	1,576,411	1,437,157	3,177,589	10,357,974	40,550,494
56,665,725	16,993	98,686	13	1,182	338,750	1,500,463	2,557,567	3,127,853	8,148,398	41,092,562
141,307	90	3,073	1	54	139,097	2,057	—	2,940	340	—
142,986	94	3,005	2	132	129,013	3,369	—	12,333	1,408	—
△ 1,679	△ 4	68△	1	△ 78	10,084	△ 1,312	—	△ 9,393	△ 1,068	—
278,725	161	5,269	1	54	161,408	59,337	—	54,989	7,488	826
531,823	302	9,510	1	54	203,990	149,777	—	134,310	38,631	14,679
3,616,146	2,080	33,421	6	952	290,231	664,930	336,011	763,200	726,441	869,706
57,557,553	15,872	102,112	13	1,323	556,026	1,578,468	1,437,157	3,180,529	10,358,314	40,550,494
56,808,711	17,087	101,691	15	1,314	467,763	1,503,832	2,557,567	3,140,186	8,149,806	41,092,562
748,842	△ 1,215	421△	2	9	88,263	74,636△	1,120,410	40,343	2,208,508	△ 542,068

体が木造と永久構造の混成である。

(続)

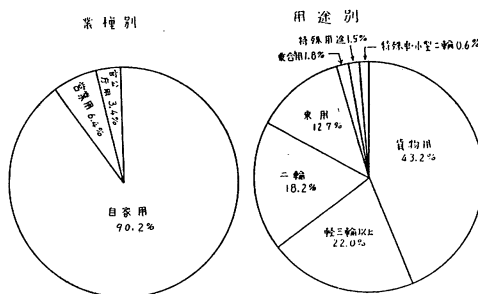
自動車交通 不能延長 (m)	路面別内訳 (m)					舗装率 (%) ⑦/⑧	渡船場		橋梁内訳		永 橋 久 率 (%) ④/⑤
	砂利道	舗装道					個 数 (個)	延 長 (m)	⑦ 永 久 橋 (橋)	⑧ 木 橋 (橋)	
		セメント系	アスファルト		⑨ 計						
			高級	簡易							
—	82,784	5,186	50,000	1,644	56,830	40.7	—	—	68	3	95.8
—	87,618	5,331	44,678	2,475	52,484	37.5	—	—	66	3	95.7
—△	4,834	△ 145	5,322△	831	4,346	3.2	—	—	2	0	0.1
—	190,357	11,810	54,393	779	66,982	26.0	—	—	135	6	95.7
—	204,820	10,282	43,773	1,026	55,081	21.2	—	—	132	14	90.4
—△	14,463	1,528	10,620△	247	11,901	4.8	—	—	3△	8	5.3
—	273,141	16,996	104,393	2,423	123,812	31.2	—	—	203	9	95.8
—	292,438	15,613	88,451	3,501	107,565	26.9	—	—	198	17	92.1
—△	19,297	1,383	15,942△	1,078	16,247	4.3	—	—	5△	8	3.7
—	459,268	4,527	97,553	14,804	116,884	20.3	—	—	305	61	83.3
77	476,194	5,071	81,691	14,648	101,410	17.6	—	—	291	76	79.3
△ 77△	16,926	△ 544	15,862	156	15,474	2.7	—	—	14△	15	4.0
120,776	2,410,410	11,788	90,839	19,943	122,570	4.8	6	2,107	849	563	60.1
121,481	2,418,136	10,325	66,384	10,743	87,452	3.5	14	3,914	803.5	593.5	57.5
△ 705△	7,726	1,463	24,455	9,200	35,118	1.3	△ 8△	1,807	45.5△	30.5	2.6
120,776	2,869,678	16,315	188,392	34,747	239,454	7.7	6	2,107	1,154	624	64.9
121,558	2,894,330	15,396	148,075	25,391	188,862	6.1	14	3,914	1,094.5	669.5	62.0
△ 782△	24,652	919	40,317	9,356	50,592	1.6	△ 8△	1,807	59.5△	45.5	2.9
120,776	3,142,819	33,311	292,785	37,170	363,266	10.4	6	2,107	1,357	633	68.2
121,558	3,186,768	31,009	236,526	28,892	296,427	8.5	14	3,914	1,292.5	686.5	65.3
△ 782△	43,949	2,302	56,259	8,278	66,839	1.9	△ 8△	1,807	64.5△	53.5	2.9
22,525,465	53,862,488	26,819	21,419	99,743	147,981	0.3	19	29,655	6,123	7,669	44.4
22,073,655	53,211,500	15,766	11,731	43,401	70,898	0.1	31	13,992	6,471	8,543	43.1
22,646,241	57,005,307	60,130	314,204	136,913	511,247	0.9	25	31,762	7,480	8,302	47.4
22,195,213	56,398,268	46,775	248,257	72,293	367,325	0.6	45	17,906	7,763.5	9,229.5	45.7
—	—	98,596	43,816	2,022	144,434	100	—	—	90	—	100
—	2,997	100,099	32,766	10,261	143,126	97.9	—	—	92	2	97.9
—△	2,997	△ 1,503	11,050△	8,239	1,308	2.1	—	—	△ 2	△ 2	2.1
—	82,784	103,782	93,816	3,666	201,264	70.9	—	—	158	3	98.1
—	273,141	115,592	148,209	4,445	268,246	49.5	—	—	293	9	97.0
120,776	3,142,819	131,907	336,601	39,192	507,700	13.9	6	2,107	1,447	633	69.6
22,646,241	57,005,307	158,726	358,020	138,935	655,681	1.1	25	31,762	7,570	8,302	47.7
22,195,213	56,401,265	146,874	281,023	82,554	510,451	0.9	45	17,906	7,856	9,231	46.0
451,028	604,042	11,852	76,997	56,381	145,230	0.2	△ 20	13,856△	286△	929	1.7

本県の自動車台数

昭和39年3月31日現在
茨城県陸運事務所

	種 別	総 数	自 家 用	官 公 署 用	営 業 用
登 録 車 輛 届 出 車 輛	総 数	100,448	90,549	3,441	6,458
	検査車輛台数	60,057	51,024	2,575	6,458
	登録車輛台数	59,608	50,633	2,517	6,458
	貨 物 用	43,353	38,988	1,079	3,286
	普通車	5,971	3,707	356	1,908
	小型四輪車	28,256	26,832	596	828
	小型三輪車	9,084	8,430	127	527
	けん引車	16	3	—	13
	被けん引車	26	16	—	10
	乗 合 用	1,834	208	37	1,589
	普通車	1,834	208	37	1,589
	けん引車	—	—	—	—
	被けん引車	—	—	—	—
	乗 用	12,761	10,794	490	1,477
	普通車	306	171	115	20
	小型車	12,455	10,623	375	1,457
	特殊用途	1,473	528	839	106
	普通車	851	247	505	99
	小型車	622	281	334	7
	特殊車	187	115	72	—
小型二輪車	449	391	58	—	
届出車輛台数	40,840	39,916	924	—	
軽自動車	40,391	39,525	866	—	
三輪以上	22,141	21,974	167	—	
二輪	18,250	17,551	699	—	

(注) 国鉄用バスは営業車輛に含む。



医 療 施 設 と

保健所名	市 町 村	医 療 施 設						病 床						医 師 等				
		病 院				一般 診療所	歯科 診療所	病 院				一 般 診療所	歯科 診療所	医師	歯科 医師	薬剤 師		
		総数	精神	結核	伝染			総数	精神	結核	伝染							
県 計		131	19	6	—	106	978	500	13,530	3,341	4,647	455	5,087	3,766	16	1,623	630	734
水 戸	水 沢 内 常 桂 戸 城 原 北 市 町 村 町 村	24	—	—	—	24	107	60	1,833	—	373	80	1,380	542	3	262	82	131
		2	1	—	—	1	8	5	412	391	—	—	21	29	—	12	3	2
		1	1	—	—	—	2	1	195	195	—	—	—	4	—	2	1	3
		2	—	—	—	2	6	3	99	—	37	—	62	32	—	11	2	4
笠 間	笠 岩 友 岩 七 間 瀬 部 間 会 市 町 町 村 村	1	—	—	—	1	15	7	22	—	—	—	22	51	—	21	12	17
		2	—	—	—	2	12	6	224	—	140	30	54	52	—	22	7	10
		3	1	—	—	2	7	3	1,125	464	416	14	231	38	—	16	5	7
大 宮	大 御 那 山 瓜 美 緒 宮 前 珂 方 連 和 川 町 村 町 町 村 村 村	1	—	—	—	1	13	4	36	—	—	—	36	32	—	21	6	1
		—	—	—	—	—	4	2	—	—	—	—	—	—	—	3	3	—
		—	—	—	—	—	9	4	—	—	—	—	—	—	—	10	4	4
		—	—	—	—	—	5	1	—	—	—	—	—	—	—	9	1	1
		—	—	—	—	—	7	3	—	—	—	—	—	—	—	4	4	2
		—	—	—	—	—	2	2	—	—	—	—	—	—	—	1	2	1
常 陸 太 田	常 金 水 里 陸 砂 府 美 市 村 村 村	4	—	1	—	3	15	12	239	—	50	—	189	54	—	32	13	13
		—	—	—	—	—	3	2	—	—	—	—	—	16	—	3	2	1
		—	—	—	—	—	2	1	—	—	—	—	—	16	—	4	1	1
日 立	小 鉾 旭 大 玉 北 川 田 洋 造 浦 町 町 村 村 町 村 村	13	1	—	—	12	66	47	1,576	293	351	73	859	179	—	140	63	69
		1	—	—	—	1	7	5	75	—	14	25	36	20	—	9	6	4
		3	—	—	—	3	10	10	96	—	—	—	—	54	—	19	14	9
		—	—	—	—	—	4	1	—	—	—	—	—	6	—	4	1	—
潮 来	波 神 鹿 大 麻 潮 牛 崎 栖 鳥 野 生 采 堀 町 村 町 村 町 町 町	1	—	—	—	1	3	8	60	—	—	—	60	15	—	6	6	4
		1	—	—	—	1	6	2	519	—	—	—	20	19	—	11	2	3
		2	—	—	—	2	6	7	271	109	120	20	22	7	—	7	6	3
		1	—	—	—	1	4	1	—	—	—	—	—	—	—	5	1	—
竜 崎	竜 新 楼 東 取 牛 江 河 藤 利 ケ 利 川 手 久 崎 市 村 村 村 町 町 村 町 村 町	3	—	—	—	3	22	12	240	84	54	30	72	55	—	36	21	14
		1	1	—	—	—	3	2	176	176	—	—	—	10	—	6	3	1
		1	1	—	—	—	6	2	102	102	—	—	—	—	—	7	3	—
		2	1	—	—	1	1	1	184	125	59	—	—	6	—	4	1	—
竜 崎	竜 新 楼 東 取 牛 江 河 藤 利 ケ 利 川 手 久 崎 市 村 村 村 町 町 村 町 村 町	4	—	—	—	3	17	5	147	45	49	—	53	63	—	32	8	14
		—	—	—	—	—	9	5	—	—	—	—	—	23	—	14	6	4
		—	—	—	—	—	9	6	—	—	—	—	—	52	8	10	9	3
		—	—	—	—	—	7	4	—	—	—	—	—	—	—	7	2	—

關係者數

昭和38年12月31日現在

県医薬務課

保健所名	市	町	村	医療施設					病 床					医 師 等						
				病 院			一般診療所	歯科診療所	病 院			一般診療所	歯科診療所	医師	歯科医師	薬剤師				
				総数	精神	結核			伝染	一般	結核						伝染	一般		
土 浦	土阿美桜出新	浦見浦	市町村村	6	2	—	—	4	63	32	935	270	151	30	484	239	—	118	42	59
				1	—	—	—	1	7	4	218	—	—	—	73	10	—	19	5	6
				2	—	—	—	2	4	2	236	—	222	—	14	28	—	16	2	4
				—	—	—	—	—	6	1	—	—	—	—	—	4	—	8	2	1
				—	—	—	—	—	7	—	—	—	—	—	—	4	—	9	1	1
石 岡	石美八千玉	岡野里	市町村村	—	—	—	—	2	25	12	76	—	—	76	85	—	41	16	16	
				—	—	—	—	—	7	3	—	—	—	—	11	—	9	3	1	
				3	3	—	—	—	9	4	238	238	—	—	—	36	—	15	5	6
				1	—	—	—	—	4	1	20	—	20	—	—	—	—	6	1	—
				2	1	1	—	—	1	—	212	100	112	—	—	5	—	3	—	2
谷 田 部	谷筑豊大伊莖	田部	町町村村	1	—	—	—	1	11	2	153	—	125	—	28	22	—	15	4	7
				2	—	—	—	2	14	6	183	—	116	15	52	28	—	20	9	9
				—	—	—	—	—	5	2	—	—	—	—	4	—	5	2	4	4
				—	—	—	—	—	7	4	—	—	—	—	19	—	7	4	2	2
				—	—	—	—	—	4	3	—	—	—	—	—	1	—	4	4	1
下 館	下結真明協大関	館城壁野和和城	市町村村	4	1	—	—	3	34	18	389	203	86	—	100	159	—	52	23	25
				2	—	—	—	2	21	7	46	—	—	—	46	55	—	26	7	19
				—	—	—	—	—	8	3	—	—	—	—	—	29	—	9	6	5
				—	—	—	—	—	9	3	—	—	—	—	—	50	—	12	3	4
				—	—	—	—	—	8	2	—	—	—	—	—	41	—	7	1	2
下 妻	下八石千	妻千代	市町村村	1	—	—	—	1	2	1	98	—	78	—	20	6	—	5	1	1
				1	—	—	—	1	5	5	74	—	59	—	15	2	—	7	5	3
				2	—	—	—	2	19	11	48	—	—	—	48	94	—	23	13	9
				—	—	—	—	—	7	4	—	—	—	—	—	2	—	7	4	3
				—	—	—	—	—	10	5	—	—	—	—	—	32	—	13	5	5
水海道	水谷岩守	海和井谷	市町村町	—	—	—	—	—	21	9	—	—	—	133	—	28	12	18		
				1	—	—	—	1	7	1	—	—	—	—	—	8	—	1	1	
				—	—	—	—	—	11	4	29	—	23	—	6	44	—	17	7	5
				—	—	—	—	—	5	3	—	—	—	—	—	22	—	7	3	6
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
古 河	古境総三猿五	河和島霞	市町村村	7	1	1	—	5	33	12	446	271	44	—	131	179	5	60	20	41
				1	—	—	—	1	10	6	65	—	18	25	22	30	—	14	8	7
				2	1	—	—	1	5	1	166	58	50	25	33	10	—	9	2	1
				—	—	—	—	—	7	5	—	—	—	—	—	28	—	8	5	2
				1	1	—	—	—	8	2	100	100	—	—	—	36	—	10	2	1
那 珂 湊	那勝大東常	珂田洗海澄	市町村村	2	—	1	—	1	17	9	52	—	32	—	20	60	—	21	12	13
				1	—	—	—	1	21	12	172	—	36	18	118	162	—	30	14	16
				1	—	—	—	1	13	6	263	—	236	—	27	41	—	13	10	14
				1	—	1	—	—	2	1	780	—	780	—	—	20	—	28	2	15
				—	—	—	—	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—
大 子	北高十	茨城王	市町	3	—	—	—	3	13	7	150	—	64	—	86	32	—	22	7	6
				4	1	—	—	3	17	8	377	117	34	35	191	73	—	33	10	13
高 萩	北高十	茨城王	市町	2	—	—	—	2	16	8	252	—	30	20	202	90	—	22	9	18
				—	—	—	—	—	5	1	—	—	—	—	—	—	—	3	2	1

県 内 の 気

観測所 気 温 月 別		大	日	大	水	笠	鉾	鹿	柿	下	下	竜	土	古	筑
		津	立	子	戸	間	田	島	岡	館	妻	ヶ	浦	河	波
気 温 (平均) C°	1	3.2	3.3	0.0	2.0	1.2	2.1	2.8	1.8	1.5	1.8	2.2	2.1	2.2	1.8
	2	3.8	3.7	1.5	3.1	2.3	2.8	3.7	2.3	2.6	3.0	3.7	3.2	3.4	0.0
	3	6.8	6.0	5.5	6.0	5.9	6.1	7.1	6.0	6.3	6.7	6.8	6.5	7.4	2.9
	4	11.7	11.8	11.8	12.1	12.1	12.5	12.6	12.0	11.7	12.9	13.0	12.5	13.3	9.4
	5	14.9	16.4	16.8	16.7	17.0	17.2	17.4	17.0	17.4	17.6	17.8	17.2	18.4	13.5
	6	18.7	19.7	20.6	20.6	20.7	20.7	20.1	21.2	21.5	21.4	21.4	20.7	22.3	17.2
	7	21.8	23.1	24.1	24.3	24.3	24.3	24.2	24.8	24.9	24.9	24.9	24.3	25.6	20.6
	8	24.2	24.5	25.0	25.5	25.6	25.5	25.5	25.7	26.0	26.1	26.2	25.6	26.9	21.3
	9	20.0	20.3	19.1	20.1	19.9	20.5	21.0	19.8	20.2	20.5	20.8	20.3	21.1	16.6
	10	16.0	15.5	14.2	15.2	15.1	15.7	16.2	15.1	15.4	15.7	16.1	15.4	16.9	11.1
	11	10.9	11.6	9.0	10.9	10.0	11.2	12.0	10.0	10.3	10.8	11.3	10.6	11.2	8.7
	12	7.1	7.9	4.9	6.5	5.7	6.2	7.6	6.3	5.7	6.0	6.8	6.2	6.7	4.6
最 高 (平均) C°	1	8.8	8.3	8.8	9.1	8.7	8.2	8.1	8.8	8.5	8.6	8.5	8.2	9.4	4.3
	2	9.3	8.5	9.7	9.4	9.5	9.1	8.5	9.5	9.5	9.4	9.6	9.1	10.4	4.5
	3	11.7	10.3	12.7	11.0	12.3	11.8	11.6	11.9	12.5	12.7	12.1	12.1	14.1	7.6
	4	16.6	16.0	19.2	17.5	18.4	17.9	17.2	17.9	18.2	18.5	17.7	17.7	19.4	13.8
	5	18.7	20.2	22.7	20.8	21.7	21.5	21.4	21.3	22.0	21.8	21.7	21.5	23.2	17.1
	6	22.2	23.3	25.7	24.6	25.4	24.9	23.8	25.3	25.9	25.2	25.4	25.0	26.7	20.5
	7	24.6	26.2	28.4	28.2	28.4	28.0	28.1	28.2	29.3	28.7	28.7	28.4	30.0	23.8
	8	27.5	27.5	29.5	29.2	29.7	29.2	29.3	29.6	30.6	30.1	30.1	29.5	31.6	24.3
	9	24.2	24.0	24.5	24.6	25.0	24.6	24.2	23.7	25.3	24.9	25.0	24.5	26.2	19.8
	10	19.6	18.9	19.6	19.6	20.1	19.7	19.4	20.0	20.4	20.4	20.4	19.6	22.2	14.2
	11	16.0	16.3	16.0	16.6	16.4	16.2	15.9	16.3	16.2	16.4	16.6	15.7	17.6	12.4
	12	12.4	12.6	12.2	12.6	12.5	12.1	12.1	12.5	11.9	12.0	12.6	11.8	13.2	8.8
最 低 (平均) C°	1	-2.5	-1.8	-8.9	-5.2	-6.4	-4.1	-2.5	-5.3	-5.6	-5.1	-4.1	-4.0	-5.1	-5.6
	2	-1.7	-1.2	-6.5	-3.3	-4.9	-3.6	-1.2	-5.0	-4.4	-3.5	-2.2	-2.8	-3.6	-4.6
	3	1.9	1.8	-1.7	0.4	-0.6	0.2	2.6	0.1	0.0	0.6	1.4	0.9	0.7	-1.9
	4	6.8	7.5	4.2	6.7	5.9	7.1	8.0	6.1	6.5	7.4	8.3	7.2	7.1	5.0
	5	11.0	12.6	11.2	12.6	12.3	12.8	13.4	12.9	12.8	13.4	13.9	12.9	13.5	9.9
	6	15.3	16.0	15.5	16.6	16.0	16.4	16.2	17.0	17.1	17.6	17.4	16.4	17.9	13.8
	7	19.0	19.9	19.7	20.3	20.2	20.5	20.5	20.7	20.5	21.1	21.1	20.3	21.1	17.4
	8	20.8	21.4	20.5	21.7	21.5	21.9	21.7	21.7	21.4	22.2	21.3	21.6	22.1	18.3
	9	15.8	16.6	13.6	15.6	14.7	16.3	17.8	14.9	15.2	16.1	16.6	16.1	16.0	13.3
	10	11.4	12.0	9.0	10.8	10.0	11.8	13.0	10.2	10.2	10.9	11.6	11.2	10.8	8.0
	11	5.7	6.9	1.9	5.1	3.6	5.8	8.0	3.9	4.3	5.0	5.9	5.5	4.8	4.9
	12	1.9	3.1	-2.6	0.4	-1.1	0.9	3.0	0.0	-0.6	0.0	1.0	0.7	0.1	0.3

資料=水戸地方気象台

象 状 況 (昭和38年)

区 分	観測所 月 別	観測所													
		大 津	日 立	大 子	水 戸	笠 間	鉾 田	鹿 島	柿 岡	下 館	下 妻	竜ヶ崎	土 浦	古 河	筑 波 山
降 水 量 mm	1	3	5	17	2	2	2	13	1	1	1	1	—	—	0
	2	32	39	14	35	45	68	43	31	28	33	33	42	33	26
	3	93	74	123	76	92	80	108	69	69	70	78	64	60	55
	4	81	76	77	75	84	71	57	89	72	85	67	44	76	62
	5	126	101	120	106	110	136	107	120	124	126	123	125	115	129
	6	271	164	113	219	138	238	298	217	159	184	240	182	196	155
	7	258	189	186	136	155	94	87	192	181	162	89	170	173	172
	8	127	108	136	116	103	181	250	145	75	105	261	219	88	95
	9	62	105	81	138	103	106	74	105	78	79	128	110	84	119
	10	239	185	187	269	243	358	490	288	225	199	350	293	222	207
	11	82	69	116	101	97	117	119	91	66	60	96	83	59	57
	12	26	20	26	91	23	29	40	21	19	19	30	23	18	17
雨 日 数	1	3	6	2	2	2	—	—	—	—	—	1	—	—	2
	2	5	6	1	7	7	6	8	6	4	5	5	6	5	—
	3	8	9	5	9	8	10	11	5	3	7	5	6	6	4
	4	9	11	8	15	10	9	10	12	10	9	11	11	10	10
	5	16	19	15	18	17	16	15	18	16	16	17	19	15	19
	6	19	22	16	25	20	16	18	22	20	16	15	16	19	24
	7	18	20	19	20	17	15	12	17	16	13	12	13	18	21
	8	13	16	14	16	12	8	11	15	10	13	12	10	12	13
	9	9	12	7	12	8	10	9	10	7	6	10	10	8	10
	10	12	16	15	19	15	13	16	21	15	12	16	12	15	18
	11	10	11	9	10	8	8	8	8	8	8	6	8	10	9
	12	10	8	4	11	7	5	7	5	5	3	7	4	4	7
風 向 (最多)	1	NW	W	N	NNW	NW	NE	W	W	W	NW	W	NW	N	W
	2	NW	NW	NW	NNW	W	NE	W	N	W	NW	W	NW	W	WNW
	3	SE	NNE	NE	N	E	NE	NE	ENE	W	NW	W	E	NE	SSE
	4	S	NNE	N	SW	SE	NE	NE	ENE	W	SW	E	E	NW	SSW
	5	SE	NE	SW	ENE	SE	NW	NE	SSW	N	SW	SW	NE	NE	SSW
	6	S	SE	N	NE	NE	E	NE	E	N	E	E	NE	SE	SW
	7	S	NE	S	SW	S	SW	SW	SE	SW	SW	SW	NE	S	SSW
	8	S	NE	N	ENE	E	S	NE	ESE	SW	W	SW	N	NE	S
	9	S	NE	N	N	E	NW	NE	NE	N	—	E	N	N	SSW
	10	NE	NNE	N	NNW	N	N	N	N	N	N	N	N	W	NNE
	11	SE	NNE	N	NNW	—	N	W	ESE	N	NE	W	N	NW	ENE
	12	N	S	N	N	S	N	W	NE	N	NE	W	N	NW	SSW

茨 城 県 鋳 工

概 況

4月の生産指数は、鋳工業149.87、公益事業110.01となり総合では149.63となつた。これを前月と比較してみると、鋳工業(-)24.47%、公益事業(-)7.43%、産業総合で(-)24.41%といずれも減少しているが、これは季節修正を加えないためであつて、前年同月と比較してみると、鋳工業(+4.23%、公益事業(+71.19%、産業総合では (+)4.42%とそれぞれ上昇を示している。

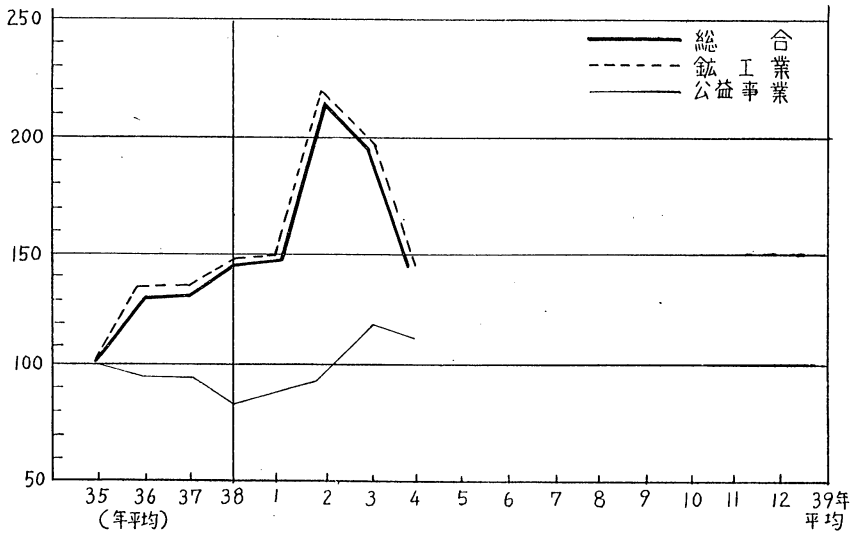
産業別にみると

- (1) 製造業は、前年同月対比で、(+3.69%の増加であるが、精密機械(+90.64%)、鉄鋼業(+81.32%)、皮革工業(+81.10%)、非鉄金属工業(+66.11%)などが大きく上昇し、一般機械は(-)59.18%と目立つて低下した。これに対してウエイトの最も高い電気機械は(+15.37%の増加にとどまつた。
- (2) 鋳業は前年同月対比で(+10.47%増加しているが、これは非金属鋳業で(+46.53%の上昇を示したが、ウエイトの最も高い石炭鋳業が(+14.04%の増加にとどまり、金属業は(-)1.44%の減少を示したためである。
- (3) 公益事業は、前年同月対比で (+)71.19%の上昇をみせているが、これは昨年10月から原子力発電が開始されたためである。

年 月	分 類				
	産 業 総 合	公 益 事 業	鋳 工 業	鋳 業	石 炭 鋳 業
ウ エ イ ト	100.00	0.60	99.40	11.42	70.92
昭和35年 平均	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
// 36 //	132.31	96.86	132.52	102.92	101.79
// 37 //	133.54	97.24	133.77	103.45	99.14
// 38 //	140.78	84.14	141.13	105.71	101.84
// 38年 4月	143.29	64.26	143.78	100.05	92.71
// 39年 3月	197.93	118.83	198.42	119.63	121.60
// 39年 4月	149.63	110.01	149.87	110.53	105.73
年 月	製 類				
	輸 送 用 機 械	精 密 機 械	窯 業	化 学 工 業	石 油 石 炭 製 造
ウ エ イ ト	2.38	0.83	4.95	2.58	0.28
昭和35年 平均	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
// 36 //	193.60	155.45	100.34	107.00	96.24
// 37 //	215.11	653.28	98.81	90.76	94.47
// 38 //	266.65	1,064.81	100.71	94.27	77.53
// 38年 4月	261.17	692.22	107.42	95.35	76.92
// 39年 3月	331.11	1,251.15	127.61	88.79	74.75
// 39年 4月	315.96	1,319.71	91.97	97.76	74.05

業 生 産 指 数 昭和 39 年 4 月 (昭和35年基準)

鉱工業生産指数



金属鉱業	非金属鉱業	製 造 業				
		鉄 鋼 業	非鉄金属工業	一 般 機 械	電 気 機 械	
25.69	3.39	88.58	2.92	17.21	10.47	27.99
100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
103.76	120.25	136.34	128.52	140.20	155.80	143.77
112.58	124.77	137.69	128.42	107.89	145.73	171.67
113.87	125.22	145.69	133.82	138.79	169.20	145.11
119.55	106.42	149.43	104.94	127.86	354.44	117.41
111.92	137.43	208.59	169.13	204.30	296.57	203.50
117.84	155.94	154.95	190.28	212.39	144.66	135.46
造		業				
皮革工業	紙及びパルプ	繊維工業	製 材	食品工業	たばこ工業	その他の工業
0.14	1.43	2.31	3.96	10.44	7.13	4.98
100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
117.94	120.46	142.27	106.76	169.52	81.79	130.22
172.06	149.67	165.19	112.56	118.99	73.96	114.21
220.33	162.22	176.71	107.98	122.71	72.04	162.19
119.25	148.49	113.95	104.34	93.35	71.89	189.17
181.84	178.51	122.30	138.00	288.93	67.20	142.99
215.97	164.42	126.08	131.27	97.77	66.85	178.47

毎月勤労統計調査結果速報 (昭和39年6月分)

第1表 産業常用労働者の種類および性別1人平均月間現金給与額（規模30人以上）

産 業	きまつて支給する給与			特別に支払われた給与			現金給与総額			日雇労働者等の1人1日平均現金給与額
	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	
総 数	27,837	13,882	23,802	24,147	6,549	19,057	51,984	20,431	42,859	532
鉱 業	29,857	10,953	28,255	8,821	1,995	8,215	38,678	12,948	36,470	423
建 設 業	26,040	13,501	24,159	28,042	11,885	25,618	54,082	25,386	49,777	694
製 造 業	26,746	12,633	22,398	25,884	5,442	19,587	52,630	18,075	41,985	731
食 料 品	29,126	12,450	22,739	15,251	4,106	10,981	44,377	16,556	33,718	525
織 維 工 業	25,113	10,239	13,114	14,788	3,629	5,786	39,901	13,868	18,900	—
化 学 工 業	31,536	13,678	25,437	3,208	1,091	2,485	34,744	14,769	27,922	—
窯 業・土石製品	27,616	12,748	24,904	15,141	3,187	12,960	42,757	15,935	37,864	—
非 鉄 金 属	28,848	14,775	26,918	14,328	5,104	13,063	43,176	19,879	39,981	—
金 属 製 品	22,794	11,945	20,031	11,314	5,413	9,811	34,108	17,358	29,842	—
機 械 器 具	22,795	13,250	20,563	25,266	7,861	21,195	48,061	21,111	41,758	522
電 気 機 械 器 具	26,625	12,864	22,345	38,714	7,305	28,944	65,339	20,169	51,289	—
その他の製造業	27,397	11,260	21,427	10,933	8,328	9,969	38,330	19,588	31,396	—
卸 売, 小 売 業	26,140	14,585	21,856	13,446	3,630	9,807	39,586	18,215	31,663	329
金 融, 保 険 業	31,508	23,067	27,096	38,215	17,170	27,252	69,723	40,237	54,348	—
不 動 産 業	21,048	11,778	19,670	24,601	4,889	21,670	45,649	16,667	41,340	—
運 輸 通 信 業	31,341	16,745	27,504	22,935	10,604	19,693	54,276	27,349	47,197	318
電 気, ガス, 水道業	38,185	20,452	36,905	68,361	38,394	66,197	106,546	58,846	103,102	—
医 療 保 健 業	43,103	22,663	31,541	42,859	21,580	30,823	85,962	44,243	62,364	—
産 業	29,123	10,479	27,890	7,423	1,031	6,986	36,546	11,510	34,876	—
建 設 業	23,878	12,586	22,154	16,293	8,432	15,092	40,171	21,018	37,246	—
製 造 業	23,473	11,991	19,561	16,851	4,541	12,657	40,324	16,532	32,218	—
食 料 品	26,198	11,878	20,295	15,734	2,845	10,215	41,932	14,723	30,510	—
織 維 工 業	18,319	9,690	10,869	4,261	3,039	3,206	22,580	12,729	14,075	—
化 学 工 業	30,462	12,963	22,621	4,087	1,094	2,746	34,549	14,057	25,367	—
窯 業・土石製品	26,449	12,238	24,283	16,021	2,676	13,987	42,470	14,914	38,270	—
非 鉄 金 属	26,196	13,479	24,851	11,269	2,775	10,371	37,465	16,254	35,222	—
金 属 製 品	21,589	11,259	19,108	10,842	4,328	9,278	32,431	15,587	28,386	—
機 械 器 具	19,739	12,405	18,195	16,174	6,464	14,131	35,913	18,869	32,326	—
電 気 機 械 器 具	22,921	12,340	19,080	23,554	6,142	17,234	46,475	18,482	36,314	—
その他の製造業	23,697	9,913	17,207	7,994	8,536	8,249	31,691	18,449	25,456	—
管 理 業	34,382	11,870	30,227	17,466	3,660	14,848	51,848	15,530	45,075	—
建 設 業	30,412	15,716	28,258	51,815	19,649	47,132	82,227	35,365	75,390	—
製 造 業	34,292	15,369	30,153	46,711	19,282	318,525	81,003	24,651	68,678	—
食 料 品	38,576	16,011	32,568	13,691	11,971	13,233	52,267	27,982	45,801	—
織 維 工 業	35,342	15,747	25,807	30,636	9,549	20,376	65,978	25,296	46,183	—
化 学 工 業	32,478	15,632	28,988	2,435	1,083	2,155	34,913	16,715	31,143	—
窯 業・土石製品	32,488	13,696	27,079	11,466	4,135	9,356	43,954	17,831	36,435	—
非 鉄 金 属	35,250	16,192	31,350	21,707	7,685	18,837	56,957	23,877	50,187	—
金 属 製 品	29,624	14,473	24,664	13,987	9,409	12,488	43,611	23,882	37,152	—
機 械 器 具	34,024	15,096	28,170	58,665	10,914	43,897	92,689	26,010	72,067	—
電 気 機 械 器 具	33,885	15,521	30,574	68,417	13,209	58,463	102,302	28,730	89,037	—
その他の製造業	31,762	17,412	29,080	14,402	7,377	13,089	46,164	24,789	42,169	—

第2表 産業常用労働者の種類および性別1人平均月間出勤日数および実労働時間数（規模30人以上）

産 業	出 勤 日 数			所定内労働時間数			所定外労働時間数			総実労働時間数		
	男 子	女 子	総 数	男 子	女 子	総 数	男 子	女 子	総 数	男 子	女 子	総 数
	日	日	日	時	時	時	時	時	時	時	時	時
総 数	23.7	23.6	23.7	181.0	181.4	181.1	23.8	8.6	19.4	204.8	190.0	200.5
鉱 業	23.6	24.5	23.7	173.8	176.1	174.0	30.7	10.8	29.0	204.5	186.9	203.0
建 設 業	22.2	22.4	22.2	168.4	167.5	168.3	9.0	5.6	8.5	177.4	173.1	176.8
製 造 業	23.6	23.5	23.5	182.0	183.1	182.3	25.0	7.5	19.6	207.0	190.6	201.9
食 料 品	25.5	23.8	24.9	196.0	186.5	192.3	21.7	5.7	15.6	217.7	192.2	207.9
織 維 工 業	25.6	23.8	24.1	205.0	190.3	193.1	9.8	4.0	5.1	214.8	194.3	198.2
化 学 工 業	23.1	22.0	22.7	182.0	173.7	179.1	28.2	8.0	21.3	210.2	181.7	200.4
窯 業・土 石 製 品	22.7	22.9	22.8	174.5	180.1	175.5	22.4	8.8	19.9	196.9	188.9	195.4
非 鉄 金 属	24.1	22.9	24.0	168.5	161.7	167.6	27.7	5.6	24.7	196.2	167.3	192.3
金 属 製 品	24.6	22.8	24.2	186.9	179.1	184.9	27.9	9.4	23.2	214.8	188.5	208.1
機 械 器 具	24.3	24.1	24.3	180.7	179.4	180.4	19.9	6.8	16.8	200.6	186.2	197.2
電 気 機 械 器 具	23.0	23.0	23.0	181.7	181.7	181.7	24.8	9.3	20.0	206.5	191.0	201.7
そ の 他 の 製 造 業	23.1	22.5	22.9	180.2	177.7	179.3	25.4	10.0	19.7	205.6	187.7	199.0
卸 売, 小 売 業	26.0	25.0	25.6	187.4	196.7	190.9	10.3	11.0	10.5	197.7	207.7	201.4
金 融, 保 険 業	25.3	25.3	25.3	184.6	188.9	186.8	6.0	3.5	4.7	190.6	192.4	191.5
不 動 産 業	25.5	29.6	26.1	178.7	206.9	182.9	7.8	2.9	7.1	186.5	209.8	190.0
運 輸 通 信 業	24.0	22.8	23.7	182.6	164.5	177.9	27.1	16.0	24.2	209.7	180.5	202.1
電 気, ガ ス, 水 道 業	25.3	25.5	25.3	173.6	184.5	174.3	14.3	2.6	13.5	187.9	187.1	187.8
医 療 保 健 業	24.6	25.6	25.2	186.5	191.3	189.2	12.9	12.3	12.5	199.4	203.6	201.7
産 業	23.1	23.6	23.1	170.9	175.7	171.2	31.4	11.6	30.1	202.3	187.3	201.3
建 設 業	20.2	20.7	20.3	157.0	154.2	156.6	7.9	7.2	7.8	164.9	161.4	164.4
製 造 業	23.3	23.4	23.3	181.1	182.3	181.5	25.6	2.5	19.4	201.7	189.8	200.9
食 料 品	25.7	23.7	24.9	197.6	185.8	192.7	25.9	5.8	17.6	223.5	191.6	210.3
織 維 工 業	26.0	23.7	24.0	208.3	189.9	192.4	12.5	3.8	5.0	220.8	193.7	197.4
化 学 工 業	23.0	21.6	22.4	181.2	170.1	176.3	33.9	7.6	22.1	215.1	177.7	198.4
窯 業・土 石 製 品	22.7	22.8	22.3	170.0	179.4	171.4	24.8	11.5	22.8	194.8	199.9	194.2
非 鉄 金 属	22.4	22.9	22.5	168.1	150.4	166.2	30.9	6.1	28.3	199.0	156.5	194.5
金 属 製 品	24.5	21.9	23.9	184.8	171.8	181.7	26.7	10.4	22.8	211.5	182.2	204.5
機 械 器 具	24.0	23.6	23.9	177.5	176.0	177.2	20.2	7.4	17.5	197.7	183.4	194.7
電 気 機 械 器 具	22.9	22.9	22.9	181.0	180.5	180.8	24.7	9.4	19.1	205.7	189.9	199.9
そ の 他 の 製 造 業	22.8	22.1	22.5	180.0	174.8	177.6	27.1	10.0	19.1	207.1	184.8	196.7
管 理 業	26.6	26.3	26.6	191.9	176.9	189.2	26.2	9.2	23.1	218.1	186.1	212.3
建 設 業	26.0	26.3	26.0	191.4	199.5	192.1	14.6	3.1	13.0	206.0	202.6	205.1
製 造 業	24.1	23.8	24.0	184.2	186.2	184.6	23.4	7.5	20.0	207.6	193.7	204.6
食 料 品	25.0	25.2	25.1	190.7	190.6	190.7	8.4	5.7	7.7	199.1	196.3	198.4
織 維 工 業	25.0	24.3	24.7	200.0	194.2	197.2	8.9	5.9	5.8	208.9	200.1	203.0
化 学 工 業	23.1	23.1	23.1	182.6	183.4	182.8	23.1	9.3	20.3	205.7	192.7	203.1
窯 業・土 石 製 品	24.8	23.2	24.3	193.2	181.3	189.8	12.2	3.8	9.8	205.4	185.1	199.6
非 鉄 金 属	28.2	23.0	27.1	169.5	174.2	170.5	20.2	5.1	17.1	189.7	179.3	187.6
金 属 製 品	25.6	26.1	25.8	199.0	205.8	201.2	35.1	5.9	25.6	234.1	211.7	226.8
機 械 器 具	25.5	25.1	25.4	192.4	186.9	190.7	18.9	5.5	14.8	211.3	192.4	205.5
電 気 機 械 器 具	23.3	23.7	23.4	183.1	187.9	184.0	24.9	9.0	22.0	208.0	196.9	206.0
そ の 他 の 製 造 業	23.5	24.5	23.7	180.5	191.0	182.4	23.3	10.0	20.8	203.8	201.0	203.2

第3表 産業常用労働者の種類、性別労働者数（規模30人以上）

産 業	前月末労働者数			本月中の増加			本月中の減少			本月末労働者数			日雇労働者 月間延べ人員
	男 子	女 子	総 数	男 子	女 子	総 数	男 子	女 子	総 数	男 子	女 子	総 数	
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
総 数	122,528	49,894	172,422	2,260	1,342	3,602	2,587	1,534	4,121	122,201	49,702	171,903	24,172
鉱 業	9,839	903	10,742	131	18	149	241	13	254	9,729	908	10,637	9,006
建設 業	6,093	1,156	7,249	225	18	243	359	204	563	5,959	970	6,629	6,891
製造 業	79,046	35,160	114,206	1,533	1,121	2,654	1,771	1,168	2,939	78,808	35,113	113,921	4,672
食 料 品	3,129	1,931	5,060	182	127	309	58	25	83	3,253	2,033	5,286	1,464
織 維 工 業	562	2,427	2,989	28	33	61	2	88	90	588	2,372	2,960	—
化 学 工 業	1,731	902	2,633	27	16	43	11	16	27	1,747	902	2,649	—
窯 業・土 石 製 品	4,732	1,043	5,775	152	33	185	336	48	384	4,548	1,028	5,576	—
非 鉄 金 属 製 品	6,668	1,048	7,656	100	37	137	95	31	126	6,613	1,054	7,667	—
金 属 製 品	1,506	521	2,027	31	17	48	29	29	58	1,508	509	2,017	—
機 械 製 造	5,620	1,702	7,322	68	75	143	77	50	127	5,611	1,727	7,338	782
電 気 機 械 器 具	36,781	16,609	53,390	643	550	1,193	884	660	1,544	36,540	16,499	53,039	—
その 他 の 製 造 業	2,406	1,422	3,828	19	35	54	22	56	78	2,403	1,401	3,804	—
卸 売 業, 小 売 業	5,469	3,237	8,706	87	72	159	56	83	139	5,500	3,226	8,726	395
金 融, 保 険 業	2,599	2,884	5,483	88	53	141	18	52	70	2,669	2,885	5,554	—
不 動 産 業	51	7	58	1	4	5	—	—	—	52	11	63	—
運 輸 通 信 業	18,112	6,443	24,555	121	56	177	102	14	116	18,131	6,485	24,616	3,208
電 気, ガ ス, 水 道 業	1,319	104	1,423	74	—	74	40	—	40	1,353	104	1,457	—
医 療 保 健 業	1,867	2,427	4,294	—	3	3	18	18	36	1,849	2,412	4,261	—
生 産 業	8,474	597	9,071	120	11	131	226	11	237	8,368	597	8,965	—
建設 業	4,098	818	4,916	171	9	180	301	191	492	3,968	636	4,604	—
製造 業	55,269	28,468	83,737	1,104	988	2,092	1,536	1,017	2,553	54,837	28,439	83,276	—
食 料 品	2,376	1,650	4,026	171	127	298	51	11	62	2,496	1,766	4,262	—
織 維 工 業	334	2,204	2,538	23	31	54	0	75	75	357	2,160	2,517	—
化 学 工 業	806	659	1,465	23	16	39	9	14	23	820	661	1,481	—
窯 業・土 石 製 品	3,842	675	4,517	120	19	139	317	23	340	3,645	671	4,316	—
非 鉄 金 属 製 品	4,666	550	5,216	79	24	103	65	19	84	4,680	555	5,235	—
金 属 製 品	1,283	412	1,695	25	13	38	29	27	56	1,279	398	1,677	—
機 械 製 造	4,423	1,162	5,585	51	63	114	69	34	103	4,405	1,191	5,596	—
電 気 機 械 器 具	24,461	13,897	38,358	407	484	891	786	620	1,406	24,082	13,761	37,843	—
その 他 の 製 造 業	1,305	1,169	2,474	12	37	43	19	53	72	1,298	1,147	2,445	—
管 理 業	1,365	306	1,671	11	7	18	15	2	17	1,361	311	1,672	—
建設 業	1,995	338	2,333	54	9	63	58	13	71	1,991	334	2,325	—
製造 業	23,777	1,692	30,469	429	133	562	235	151	386	23,971	6,694	30,645	—
食 料 品	753	281	1,034	11	—	11	7	14	21	757	267	1,024	—
織 維 工 業	228	223	451	5	2	7	2	13	15	231	212	443	—
化 学 工 業	925	243	1,168	4	—	4	2	2	4	927	241	1,168	—
窯 業・土 石 製 品	890	368	1,258	32	14	46	19	25	44	903	357	1,260	—
非 鉄 金 属 製 品	1,942	498	2,440	21	13	34	30	12	42	1,933	499	2,432	—
金 属 製 品	223	109	332	6	4	10	—	2	2	229	111	340	—
機 械 器 具	1,197	540	1,737	17	12	29	8	16	24	1,206	536	1,742	—
電 気 機 械 器 具	12,320	2,712	15,032	236	66	302	98	40	138	12,458	2,738	15,196	—
その 他 の 製 造 業	1,101	253	1,354	7	4	11	3	3	6	1,105	254	1,359	—

茨城県常住人口・世帯数 (推計)

＝昭和39年5月1日現在＝

区分 市町村別		世帯	人			区分 市町村別		世帯	人		
			計	男	女				計	男	女
県計	計	418,786	2,074,569	1,019,101	1,055,468	神栖村	3,008	15,701	7,651	8,050	
郡計	計	220,802	1,136,134	552,562	583,572	波崎町	4,703	24,433	12,009	12,424	
市計	計	197,984	938,435	466,539	471,896	行方郡	13,300	69,219	33,015	36,204	
水戸市	市	34,989	154,693	75,400	79,293	麻生町	3,674	18,844	9,107	9,737	
日立市	市	39,453	182,503	96,183	86,320	堀来町	1,297	6,361	2,985	3,376	
土浦市	市	16,631	79,888	39,183	40,705	北浦町	3,340	17,722	8,284	9,438	
古河市	市	10,721	48,663	23,518	25,145	玉造町	2,228	11,631	5,537	6,094	
石岡市	市	7,553	36,234	17,266	19,486	敷戸郡	21,889	110,637	54,326	56,311	
下館市	市	10,575	52,419	25,545	26,874	江崎町	2,577	12,844	6,106	6,738	
竜ヶ崎	市	7,813	37,526	18,040	19,486	浦見町	1,729	8,617	4,103	4,514	
那珂市	市	7,133	34,103	16,343	17,760	阿久根町	4,616	23,212	11,958	11,254	
那珂市	市	6,963	33,434	16,264	17,170	利根町	3,429	16,465	8,263	8,202	
水戸市	市	5,756	28,588	13,792	14,796	新井村	1,064	6,164	3,029	3,135	
常陸大宮市	市	7,469	36,764	17,706	19,058	利根村	1,796	9,035	4,357	4,678	
勝北町	市	7,794	38,079	18,520	19,559	内川村	2,405	12,092	5,883	6,209	
高萩市	市	8,969	51,424	27,909	23,515	東河塚村	1,727	8,753	4,117	4,636	
北茨城	市	7,418	34,370	17,105	17,265	東河塚村	2,546	13,455	6,510	6,945	
笠間市	市	12,296	58,308	28,648	29,660	新治郡	15,571	79,330	38,558	40,772	
東茨城	郡	6,451	31,439	15,117	16,322	出島村	3,413	16,836	8,258	8,578	
茨城	町	26,082	130,116	63,335	66,781	玉里村	957	4,679	2,221	2,458	
常陸	町	1,736	9,433	4,564	4,869	八千代村	5,608	29,598	14,328	15,270	
茨城	町	5,620	29,629	14,643	14,986	新治村	2,115	11,214	5,503	5,711	
小美川	町	3,056	15,590	7,528	8,062	新治村	1,616	7,932	3,872	4,060	
美野里	町	2,940	14,245	6,985	7,260	新治村	1,862	9,071	4,376	4,695	
内原北	町	2,396	13,046	6,502	6,544	筑波郡	17,280	86,518	41,743	44,775	
常陸	町	2,373	10,909	5,245	5,664	田部村	4,021	20,420	9,992	10,428	
常陸	町	1,783	8,301	3,973	4,328	伊奈村	2,169	11,467	5,446	6,021	
桂北	町	1,394	6,689	3,216	3,473	和原村	1,997	10,365	4,999	5,366	
御前山	町	1,394	6,689	3,216	3,473	里波村	2,162	10,712	5,213	5,499	
大洗町	町	4,784	22,274	10,679	11,595	筑波大	4,685	22,457	10,727	11,730	
西茨城	郡	11,653	59,378	28,685	30,693	大穂町	2,246	11,097	5,366	5,731	
茨城	町	3,804	19,372	9,306	10,066	真壁郡	14,210	74,858	36,104	38,754	
友部	町	2,733	13,523	6,595	6,928	関野町	2,714	14,670	7,072	7,598	
若岩	町	694	3,711	1,826	1,885	明真町	3,081	16,568	7,979	8,589	
若岩	町	4,422	22,772	10,958	11,814	真大協	4,321	21,801	10,478	11,323	
那珂	町	20,740	105,321	51,952	53,369	大協	1,433	7,446	3,630	3,816	
珂海	町	2,821	16,268	8,586	7,682	結城郡	9,426	49,358	23,817	25,541	
東那珂	町	6,127	31,025	15,255	15,770	八千代	4,224	23,348	11,308	12,040	
那珂	町	1,407	6,987	3,354	3,633	石代	1,601	7,627	3,664	3,963	
大那	町	4,821	23,616	11,436	12,180	下川	3,601	18,383	8,845	9,538	
山方	町	2,543	12,353	6,046	6,307	猿島郡	20,705	117,933	57,960	59,973	
美和	町	1,504	7,667	3,740	3,927	総和	3,129	20,695	10,741	9,954	
川和	町	1,517	7,405	3,535	3,870	三和	1,536	8,578	4,216	4,362	
久慈	郡	13,811	67,489	32,531	34,958	島井	3,310	18,693	9,028	9,665	
金砂	村	2,734	14,022	6,744	7,278	北相馬	2,530	14,342	6,980	7,362	
水府	村	2,189	10,408	4,965	5,443	守取	6,055	33,583	16,468	17,115	
里美	村	1,385	7,284	3,461	3,823	岩境	4,145	22,042	10,527	11,515	
大子	町	7,503	35,775	17,361	18,414	鹿島郡	21,890	116,656	56,722	59,934	
多賀郡	十王町	2,220	10,997	5,426	5,571	旭鉾	1,965	11,580	5,585	5,995	
鹿島	町	21,890	116,656	56,722	59,934	田洋	5,493	28,233	13,689	14,544	
旭鉾	町	1,965	11,580	5,585	5,995	野島	1,829	9,815	4,688	5,127	
田洋	町	5,493	28,233	13,689	14,544	鹿島	1,823	9,991	4,914	5,077	
野島	町	1,829	9,815	4,688	5,127	大鹿	3,069	16,903	8,186	8,717	
鹿島	町	1,823	9,991	4,914	5,077	北相馬	12,025	58,324	28,388	29,936	
大鹿	町	3,069	16,903	8,186	8,717	守取	2,323	11,463	5,593	5,870	
						取手	5,573	25,112	12,265	12,847	
						藤代	2,430	12,907	6,239	6,668	
						根代	1,699	8,842	4,291	4,551	

この調査の人口と世帯数は県において推計にもとづき作成したものである。

○は男名前は女？をつけ

最近の統計調査票をみると該当の数字を丸で囲むとか文字に丸をつけるとかの方式がとられているものが多いなっている。

○一つのつけ違いでも調査票で女が男にされたり、年齢などで子供がお爺さんになってしまうようなことも起り得ることで、たかが○一つでも充分注意して記さないととんでもない誤りを生ずることになり兼ねない。

国勢調査などで調査票の審査をしていてこの○のためにいろいろと悩まされることがある。○のつけ違などでこの○と調査票に記載された他の項目や、数字との食い違などがあると票全体からみておかしいものが出来あがつてしまう。もつとも多少の誤りはあつても集計して全体からみればわからなくなるわけだが、これが多くなると誤差も大きくなつてしまう。名前が○子といったような女性のものであるのに性別では(男)となつていようなことがある。こうなると実際にその人を知らない者は(女)に非ずやなどと符箋をつけて照会してしまう。こんな紛らわしいときは調査票の当該欄に「男に相違なし」とでも符箋をつけてもらえば大変ありがたいわけである。名前はどつちみち親が適当？につけたものであり一種の符号みたいなので、一番目だから一郎とか初枝とか末つ子だから留男とか子供が生れても育たないので反対の名前、男に女の名前をつけるとか、性名学などから最高のものをつけても人の一生はその名前について行けないようなつまらない人生に終つて、名前が泣くなどの結果にもなるようである。

家計簿が悲鳴をあげてるまた値上

どうです近頃の物の値上りは家計をあづかる主婦にとつては頭の痛い問題ですね。街中はいたるところあれもこれもみんな値上で、いつたいいつになつたら物価が安定してくれるのでしよう。

戦前には恩給生活者という一種の職業的みたいな者が存在していたわけですが、恩給をもらつて老後のささやかな生活を楽しんでいたわけです。これが現在ではどうです。年金をもらつても年毎の値上りで、煙草錢ぐらいになつてしまうわけです。ですからある程度の年齢になつて職を辞めなければならぬとなると、今後の生活が問題になつ

ておいそれと辞めることができないのが今の世の中でしょう。

モノの値が騰つていく割に上らないのは所得、お札の運搬機などといわれる亭主族にとつて家計の赤字を報告されるたびに咏木の「働けど〜ジツと手をみる」という実感をしみじみと味わうことでしょう。物価の値上りを敏感にキャッチするのが家計簿であつて、毎日の生活を欠かせない日用品や食糧品などは金額こそ少ないが、値上率はすこぶる大きく、つもりつもつて馬鹿にならない額となつて家計簿に記される、そして女房族のヒステリーの要因ともなつてくるわけではないでしょうか。

人の和が表彰という実を結び

我田引水になるおそれもあるが、以前学校関係の統計調査をやつていて人の和がいかにか大切であるかという実例をちよつとご紹介してみたい。

学校関係の統計事務を4年やつて、3回大臣賞の栄に輝やいた。しかも住宅統計調査事務でも大臣賞を受賞されるということである。

仕事は別に平常と変りなく普通にやつてきたつもりであつて、別に賞をもらうという気分は係員一同も期待してもいなかつたわけである。それだけに自分達のやつてきた仕事が完べきに近かつたという自信を持つたことではないかと思つている。

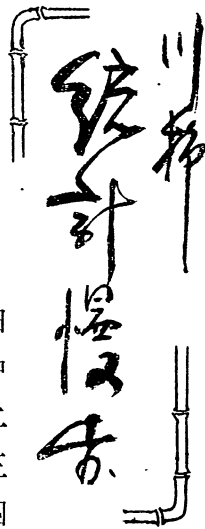
表彰などというものはもらうために努力してみたところで意味のない話で、もらおうとしてももらえるものではない。あの程度のことをやつて表彰を受けるということ

であればそんなにむづかしいことでもないようである。しかし与えられた仕事を各人が責任をもつて果したということ、すなわち人の和が表彰という結果になつて表わされたに過ぎないと思う。

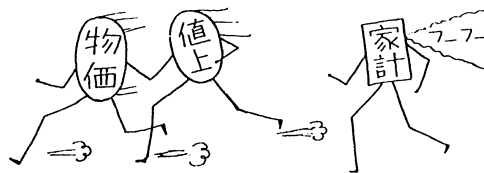
いかに優秀な人であつても、人の2倍も働けるものではない。平凡な人間がお互いに一致して各人を尊重し、和気あいあいとした一家という感じで執務が出来るときどんな仕事でもそうムキにならずスムーズに行な

われるのではないだろうか。

その当時の人達はいま離れ離れになつてそれぞれ違つた分野で活躍をしている。しかしあの当時お互いにいたわり合い、お互いに冗談を言いながら気持ちよく執務できたことを心から感謝している。



(3)





昭和39年度 茨城県統計大会開催きまる

昭和39年度の本県統計大会の開催についての要領が決まりました。毎年恒例として開かれておりますこの大会は、県下統計関係者の祭典として、盛大に行われております。今年も一層の意義あらしめるため、皆様のご協力をお願いいたします。

記

目的 統計関係者の意識の統一と、県民に対する統計思想の普及向上のための意見の交換をし、相励すこと。

主催 茨城県・茨城県統計協会

期日 昭和39年10月6日（火曜日）

会場 水戸市北三の丸・茨城会館

参会者 本県統計関係者

行事 統計功労者の表彰・統計図表展入選入賞者表彰
統計図表展入選入賞作品展示・統計調査員の体験発表記念講演

地方統計職員業務研修の実施

統計基準局は、市区町村統計職員を対象として、昨年度はじめて全国約100か所で4日間の短期研修を行なったが、本年度も5月末から6月にかけて6か所で指導者研修が行なわれた。本年の指導者研修は、研修課目の内容によつて統計解析分科会、行政、実務分科会、統計利用分科会の3分科会を設け、各分科会では7ないし11科

目を4日間に分けて実施した。今回分科会方式としたのは、一般研修の研修科目を都道府県で選定する際、全科目について内容を知っておくことが望ましいこと、各分科会に同一人が出席することによつて関連ある諸科目について専門的理解がえられること、指導者研修の講師の思想統一が容易であることなどの理由によるものとされている。この後、一般研修が北海道4か所その他の都道府県各2か所合計49か所で実施されることになっている。

第12回全国統計図表コンクール審査結果

去る6月末日で締め切つた第12回全国統計図表コンクールに応募した作品は、一般からのものではなく小中学校合せて49点が県へ提出されました。

今年是全国統計大会の開催時期の関係から応募期間が短かつたので、出品作品の少ないのは残念でした。これら応募出品作品については、県・教育庁・統計協会から関係者が参加慎重に第一次審査を行なつた結果、第1部（小学校）5点、第2部（中学校）5点が出品作品として選ばれました。その結果についてこのほど主催者の全統連から入選者決定の通知があり、本県関係のものは第2部入選8席、佳作のそれぞれ各1点が入選しました。なお、これが入選者に対する表彰は、8月27日青森市で開かれる全国統計大会の席上行なわれることになっております。

統計課人事異動

(昭和39年8月1日付)

新				旧
農林統計係	主事	岡田紀一郎	企画係	企画係
商工統計係	〃	坪隆	経済統計係	経済統計係
企画係	主事補	木名瀬一恵	農林統計係	農林統計係
経済統計係	〃	福田邦子	土浦土木事務所	土浦土木事務所
人口学事統計係	〃	柏村昌子	農業改良課	農業改良課
退職	〃	深沢春子	人口学事統計係	人口学事統計係

☆近着統計資料案内☆

<不 定 期 刊 行 物>

資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者	資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者
経 済			生産動態統計年報	38 年	愛 知 県
消費者動向予測調査結果 (速報)	39年 5月	経 済 企 画 庁	青森県統計年鑑	37 年	青 森 県
法人企業投資予測調査報告	39年 6月	〃	和歌山県統計年鑑	36 年度	和 歌 山 県
管内経済統計年報	38 年	関 東 財 務 局	島根県統計書	37 年	島 根 県
産 業			福井県民所得	37 年	福 井 県
化学工業統計年報	39 年版	通産大臣官房	新潟県民所得推計結果報告	37 年	新 潟 県
繊維統計年報	38 年	〃	千葉県統計年鑑	38 年	千 葉 県
紙, パルプ統計年報	39 年版	〃	広島県統計年鑑	38 年	広 島 県
教 育			佐賀県統計書	38 年	佐 賀 県
学校教員構成等調査報告書	38 年	文 部 省	県民所得	37 年	長 野 県
へき地学校実態調査報告書	38 年	〃	大阪の職場	38 年	大 阪 府
茨 城 県			千葉県勢要覧	38 年版	千 葉 県
茨城県議会資料	39 年 8 月刊	議 会 事 務 局	徳島県統計書	38 年	徳 島 県
国保の実態	39 年度	国 保 連	学校基本調査	38 年	島 根 県
医療施設, 医師, 歯科医師 薬剤師調査	38 年	医 薬 務 課	学校保健統計調査	〃	〃
茨城県衛生研究報告	39 年 3 月刊	衛 生 研 究 所	県民所得推計報告	37 年	鳥 取 県
茨城県税務行政資料	39 年	税 務 課	鳥取県の賃金と雇用	38 年	〃
ポケット予算	39 年	議 会 事 務 局	鳥取県統計年鑑	39 年刊	〃
茨 城 職 安		県職業安定協会	工業統計調査結果報告書	37 年	鳥 根 県
交 通 年 鑑	38 年	警 察 本 部	商業統計 〃 〃	37 年	〃
県 税 等 決 算 額 調	38 年	税 務 課	群馬県統計年鑑	39 年刊	群 馬 県
茨城県道路現況調査	38 年	道 路 補 修 課	消費者動向予測調査報告	39年 2月	〃
石 岡 市 の 農 業	39 年刊	石 岡 市	統計年鑑	38 年	愛 知 県
常 陸 太 田 (要覧)	39 年刊	常 陸 太 田 市	家計調査報告	38 年	滋 賀 県
初 任 給 の 動 向	39年 4月	経 営 者 協 会	毎勤地方調査結果年報	38 年	〃
モデル賃金調査結果報告	〃	〃	学校基本調査結果	38 年	千 葉 県
職 種 別 賃 金 の 推 移	〃	〃	県 勢 要 覧	38 年	和 歌 山 県
企 業 経 営 と 賃 金	〃	〃	琉球統計年鑑	37 年	琉 球 政 府
石 下 町 建 設 実 施 計 画	39 年刊	石 下 町	県 民 所 得	37 年	山 口 県
ま か べ (要覧)	39 年刊	真 壁 町	奈良県統計年鑑	37 年	奈 良 県
い し げ 町 勢 要 覧	83 年	石 下 町	琉球要覧	38 年	琉 球 政 府
各 都 道 府 県			山形県勢要覧	39 年版	山 形 県
市 政 概 要	38 年度	横 浜 市	秋田県勢要覧	39 年版	秋 田 県



人間雑話 (23)

茨城大学教授 塚本勝義

いま、オリンピック目あてに物心両面にわたって、いろいろの準備をしている。いいことだ。利口な人は、そんな付焼刃は笑止の限りだという。しかし、道をよくすれば、よい道はあとまで残る。花を咲かせれば種の一粒や二粒はきつと地中にもぐり込む。親切の快さを経験すれば、その気持良さは死ぬまで心に刻みつけられる。決して無駄な骨折りとはならぬ。

よく生きる人は、どんな小さいチャンスをも見逃さない。見えないようなチャンスをも手際よく捉えて最大限の効果を収める。小さいチャンスを捉えられぬ人間は、間違つても大きいチャンスはつかめぬ。オリンピック目あての小細工は問題でないなんて大きく構えている人間こそ問題でない。

○ ○ ○ ○

どんな職場にある人だつて自分の仕事に慣れることは大切だ。習うより慣れろ——という諺さえある。が、慣れることの本質を忘れると、困つたことになりかねない。自分の責任を果すこと、仕事の能率を挙げることに慣れるのが「本質的な慣れ」だろう。手を抜くことに慣れる、ごまかすことに慣れる、責任逃れに慣れる——みんな困つた慣れかただ。タダ酒を呑むことに慣れるなどは飛んでもない。

就職後十年ぐらいが浮かぶか沈むかの境になる。いわば人生の関が原だ。この十年間に本質的な慣れ方をすればしめたもの。その人間はぐんぐん伸びる。くだらぬ慣れ方をすれば闇夜の自転車乗りみたいに同じ所ばかりぐるぐる廻りして野垂れ死にしてしまう。私の知つてる人で、目ざましく伸びつづけている者がある。ときどき会うが、いつも初々しい。新鮮で、清潔だ。悪ずれしない何よりの証拠だ。もう四十に手の届く年配らしいが、話している感じでは学生とおなじ。よくこれで大切なポストにいられるもんだと不思議にさえ思う。おそらくあの男は、現在の初々しさを失わぬ限り、いつまでも伸びるだろう。死ぬまで育つだろう。

○ ○ ○ ○

人間は生き物の中では確かに賢い方だろう。しかし人間も生き物の一種で、決して神や仏でないから、ときどき馬鹿げた事をやる。アメリカのウィリアム・パロウズという男は「裸の昼食」という作品で、排泄の模様を事

こまかに書いた。全くつまらんことに力を入れたものだ。人間の馬鹿さ加減を説明したようなものだ。かつて石原慎太郎が「太陽の季節」の中に障子を突き抜く場面を書いた。すると文学志望の連中が、われもわれもときわどい場面を書き立てた。

くだらん事に興味を持ち、つまらぬ事を真似たがる性質も人間は持つているらしい。

○ ○ ○ ○

高村光太郎の「智恵子抄」が近頃評判となり、とうとう流行歌にまで作られてしまった。昭和16年の作が今頃大人気を得たのだから夢のようだ。水戸の本屋さんにお尋ねすると、毎月きまつた部数が、きまつて出ていとおつしやる。本物の生命は永いという事実を痛感する。たしかに「美しい」という形容詞のびつたりする作品だ。人間には薄汚い面もあるがこんな美しい面もある。排泄光景に馬力をかけるような鼻もちならぬ愚かさもあるが、神の心にも通う美しい情感を持つている。

愛の心の深さ、美しい哀しさ、神秘的な夫婦のあわれさを、こんなに豊かに湛えた作品はめつたにない。類を求めるとしたら万葉集の相聞歌が探りあてられるくらいだろう。こんな美しい愛の相を現わし得た詩人高村光太郎の心情の有難さもさることながら、見落し得ない人間関連のひとつの事実もひそんでいることを忘れたくない。それは関連する人間のレベルが大きく開いている場合には、誰でも案外素なな心情を持ち得るということだ。正気の光太郎と狂つた智恵子との距離は大きい。まるで違つた世界の夫と妻である。こうなると、どんな人間でも無理なく相手を眺めることができる。親と子は、ややもすれば対立し易いが、祖父母と孫という関連になると、もう対立は生まれない。祖父母の愛は殆んど無条件で孫にふりそそがれる。落差の大きい必然の現象だ。光太郎の愛が、あんなに純粋になり得た原因のひとつにこの夫と妻の落差がはたらいている。

人間としてのレベルがまるで違つている夫婦で、すばらしくうまく行つている例もざらにあるのは、光太郎智恵子の場合と全く同じといえる。自然な愛のよるこびに生きたいものは、レベルの異なる結婚をした方がよるしいという意見だつて決して暴論ではない。人間関連は限りなく複雑である。